

平成24年度

がん治療高度専門家養成プログラム
履修要項

東京医科歯科大学

目 次

プログラム修了の要件並びに履修方法

1. 修了の要件	1
2. 評価、単位認定等	2
3. 履修方法等	3
4. 他大学生の身分	3
5. 講義時間	3
6. 講義室	4
○履修登録の流れ	5

平成24年度次世代がん治療推進専門家養成プラン時間割	6
平成24年度次世代がん治療推進専門家養成プラン講義カレンダー	8
カリキュラム	9
平成24年度開講予定のコース一覧	10

専門医師養成コース

総合基礎

がんの分子生物学概論	12
がんの病理・病態学概論	14
がんのシステム生物学概論	16
がんの社会医学概論	18
がんの細胞生物学概論	20

総合発展

頭頸部がんの診療	22
----------	----

放射線療法

放射線基礎・放射線応用	24
-------------	----

化学療法

抗がん剤薬理学概論Ⅰ・Ⅱ	26
--------------	----

緩和基礎

緩和医療学概論	28
精神腫瘍学特論	30
緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ	32

緩和基礎

症状マネジメント（基礎編）	34
症状マネジメント（応用編）	36

がん看護専門看護師養成コース

看護学研究法特論	40
看護教育学特論	42
看護政策学特論	44
看護管理学特論	45
看護病態生理学	47
在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-1	49
在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-2	51
在宅ケア・緩和ケア看護学演習A	53
在宅ケア・緩和ケア看護学特論B	55
在宅ケア・緩和ケア看護学演習B	57
在宅ケア・緩和ケア看護学実習	59
専攻教育課程照合表	61

医学物理士養成コース・放射線治療品質管理士養成コース

科目一覧表	64
-------	----

他大学生の施設の利用、学内の掲示、生活協同組合、図書館	65
-----------------------------	----

交通案内・キャンパス案内等	66
---------------	----

東京工業大学地図	68
----------	----

プログラム修了の要件並びに履修案内

1. 修了の要件(平成 24 年度以降、変更の可能性あり)

○がん専門医師養成コース

・放射線療法専門医師養成コース

放射線療法専門医師養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の 3/4 以上の科目において単位を取得し、かつ設定された実習において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。ただしそれまでの履修実績などを勘案し指導教員が本プログラムにおいて単位取得の必要がないと判断した科目については、必須要件から除外することができる。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムの取得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

・化学療法専門医師養成コース

化学療法専門医師養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の 3/4 以上の科目において単位を取得し、かつ設定された実習において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。ただしそれまでの履修実績などを勘案し指導教員が本プログラムにおいて単位取得の必要がないと判断した科目については、必須要件から除外することができる。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムの取得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

・緩和ケア専門医師養成コース

緩和ケア専門医師養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の 3/4 以上の科目において単位を取得し、かつ設定された実習において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。ただしそれまでの履修実績などを勘案し指導教員が本プログラムにおいて単位取得の必要がないと判断した科目については、必須要件から除外することができる。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムの取得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

○メディカルスタッフコース

・がん専門看護師養成コース

保健衛生学研究科博士課程において、がん看護専門看護師履修要件である科目 26 単

位を含め学生が属する課程の修了要件単位数を履修し、かつ必要な論文指導を受けた上で、保健衛生学研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

・医学物理士養成コース

医学物理士養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の 3/4 以上の科目において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムでの取得単位を含めて課程が求める修了要件に従うものとする。

・放射線治療品質管理士養成コース

放射線治療品質管理士養成コースに設定された講義および演習の必修科目全体の 3/4 以上の科目において単位を取得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムでの取得単位を含めて課程が求める修了要件に従うものとする。

○インテンシブコース

・がん医療専門医師研修コース

それぞれの研修専門分野において実施される授業科目において 8 単位相当を受講し、成績評価を受け全てに合格すること。

研修専門分野 → ・放射線療法 ・化学療法 ・緩和ケア

2. 評価、単位認定等

○評価の方法

出席状況、授業態度、レポート、小テスト等によって評価する。

○単位認定

単位認定はプログラム全ての講義が終了した後に行われる。（年度末）

なお、このプログラムで認定された単位は、医歯学総合研究科博士課程の卒業要件単位に含むことが出来る。

○修了証

所属する研究科の最終試験に合格し、本プログラムの修了要件を満たした時に発行する。

3. 履修方法等

○履修方法

・がん専門医師養成コース、メディカルスタッフコース

本プログラム専用の履修届を下記の登録期間内に教務課大学院室へ提出する。

他大学の学生は所属する大学担当者を通じて履修登録をする。

・インテンシブコース

「インテンシブコース履修申請書」を下記の登録期間内に教務課大学院室へ提出する。

所属する病院に事務担当者がいれば担当者を通じて履修登録をする。

○履修登録受付

平成 24 年 4 月 10 日（火） ～ 平成 24 年 4 月 20 日（金）

○履修の可否及び通知

不可の場合のみ連絡

○履修辞退手続き

履修を辞退する場合には、教務課大学院室に相談すること。

他大学生は所属する大学の担当者へ相談すること。

4. 他大学生の身分

「特別聴講学生」とする。履修期間は履修する授業科目が開講されている授業期間とする。

5. 講義時間

○がん専門医師養成コース

1 時限 18 : 30 ~ 19 : 50

2 時限 19 : 50 ~ 21 : 10

質疑応答 21 : 10 ~ 21 : 30

原則として上記時間帯に講義を行う。

○メディカルスタッフコース

・がん看護専門看護師コース

本学保健衛生学研究科の定める時間割に従うものとする。

・医学物理士養成コース

東京工業大学の定める時間割に従うものとする。

6. 講義室

○がん専門医師養成コース

- ・ 東京医科歯科大学 M&D タワー医歯学総合研究棟 11 階大学院講義室 3

＊原則として、上記講義室で実施するが、都合により変更になることもある。

○メディカルスタッフコース

- ・ がん看護専門看護師コース

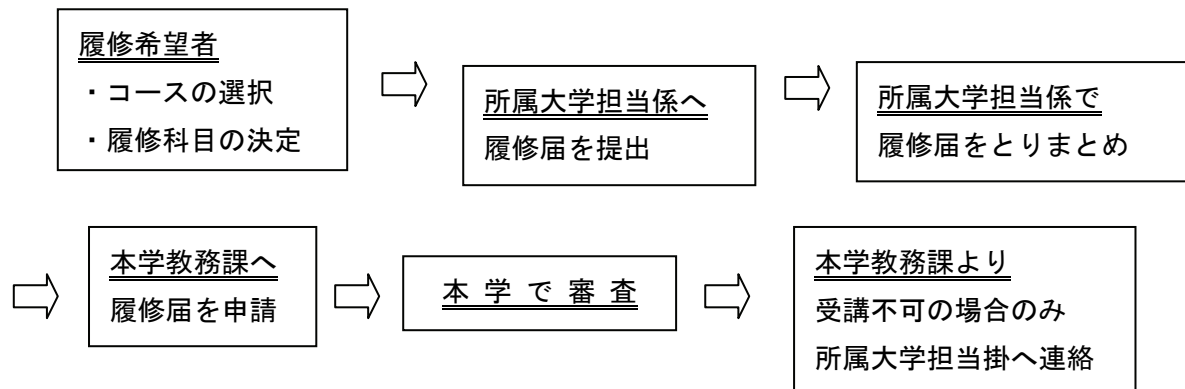
本学保健衛生学研究科の定める講義室において実施する。

- ・ 医学物理士養成コース

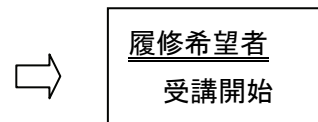
東京工業大学 田町キャンパス CIC（キャンパスイノベーションセンター）において実施。詳細は東京工業大学で定める。

○履修登録の流れ

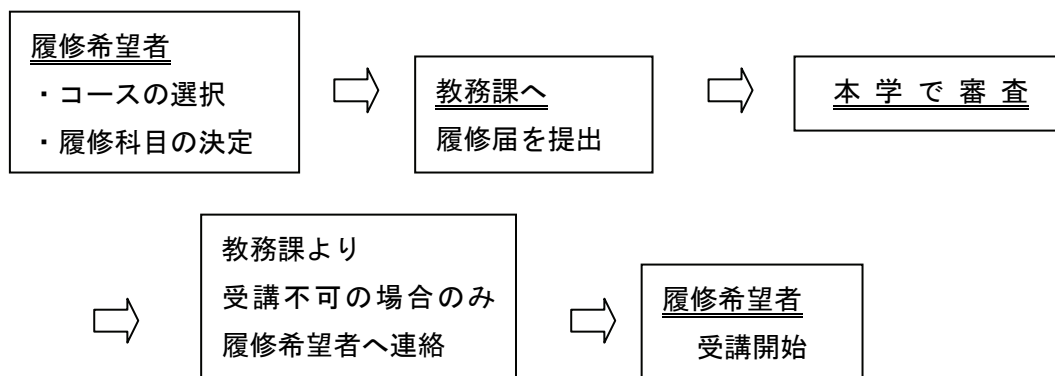
協定大学の学生が履修する場合



1. コースを選択し、履修科目の決定
2. 履修届けを記入（東京医科歯科大学がんプロ専用様式）
3. 所属大学取りまとめ担当係へ提出
（取りまとめ担当係は大学により異なるため各大学へ問合せてください）
4. 所属大学とりまとめ担当係が本学学務部教務課大学院室へ受講申請（履修届を提出）
5. 本学より所属大学とりまとめ担当係へ受講不可の場合のみ連絡
6. 受講開始



本学の学生が履修する場合



1. コースを選択し、履修科目の決定
2. 履修届けに記入
3. 履修届けを学務部教務課大学院室に提出
4. 研究科運営委員等の審査 受講不可の場合のみ履修希望者へ連絡
5. 受講開始

平成24年度 次世代がん治療推進専門医養成プラン 時間割

種別	ページ	科 目 名	備考	単位	科目責任者	担当教員及び分担詳細科目				
						1日目(月)	2日目(火)	3日目(水)	4日目(木)	5日目(金)
総合基礎										
総合基礎		がんの分子生物学概論	A	1	湯浅保仁	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日	4月27日
						秋山好光	湯浅保仁	深町博史	澁谷正史	島田 周
		がんの病理・病態学概論	A	1	江石義信	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	5月11日
						江石義信 北川昌伸	小林大輔 倉田盛人	明石 巧 沢辺元司	秋田恵一	秋田恵一
		がんのシステム生物学概論	A	1	田中 博	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	5月18日
						田中 博	高井貴子	飯島久美子	萩島創一	茂櫛 薫
		がんの社会医学概論(MMA)	A	1	植竹宏之	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日	5月25日
						河原和夫	中山健夫	富田 誠	小池竜司	吉田雅幸
		がんの細胞生物学概論	A	1	水谷修紀	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	6月1日
						中釜 斉	畑 裕	水谷修紀 寺岡弘文	寺岡弘文 清水重臣	吉岡研一 高木正稔
総合演習		包括的がん治療学演習	A	1	植竹宏之	キャンサーボードにて実施 追って詳細連絡				
専門医養成コース										
発展		低侵襲がん治療Ⅰ(鏡視下手術)(予定)	A	1	植竹宏之	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日
		低侵襲がん治療Ⅱ(集学治療)(予定)	A	1	植竹宏之	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日
		頭頸部がんの診療	A	1	岸本誠司	11月12日	11月13日	11月14日	11月15日	11月16日
						杉本太郎 久保田彰	岸本誠司 根本 繁	澁谷 均 鶴澤成一	原田浩之 谷口 尚	岡崎 睦 管澤 正
		臓器別がんの診療 (シンポジウムの予定)	A	1	未定	11月19日～11月22日				
					未定	11月26日～11月30日				
		がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ(予定)	A	1	植竹宏之	12月3日	12月4日	12月5日	12月6日	12月7日
		がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅱ(予定)	A	1	植竹宏之	12月17日	12月18日	12月19日	12月20日	12月21日
放射線療法専門医養成コース										
放射線基礎		放射線物理学・放射線技術学特論	C	1	三浦雅彦	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日
						阿部慎司	阿部慎司	阿部慎司	未定	未定
		腫瘍放射線生物学特論	C	1	三浦雅彦	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日
						三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	渡邊 裕	三浦雅彦
		腫瘍放射線診断学・核医学特論	C	1	大橋 勇	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日
						大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	鳥井原 彰	鳥井原 彰
放射線応用		腫瘍放射線治療学特論	C	1	澁谷 均	祝日	10月9日	10月10日	10月11日	10月12日
							澁谷 均	澁谷 均	澁谷 均	澁谷 均
化学療法専門医養成コース										
化学療法		抗がん剤薬理学概論Ⅰ	A	1	安原真人	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日
						安原真人	谷川原祐介	岡田弘晃	玉井郁巳	
		抗がん剤薬理学概論Ⅱ	A	1	安原真人	10月29日	10月30日	10月31日	11月1日	11月2日
						三木義男	永田将司		小竹良彦	林 良雄
		東京薬科大学担当科目追加(予定)	A	1	未定	11月5日	11月6日	11月7日	11月8日	11月9日
緩和ケア専門医養成コース										
緩和基礎		緩和医療学概論	A	1	松島英介 萩原隆二	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日
						萩原隆二	鈴木荘一	松下年子	小池真規子	富田 伸
		精神腫瘍学特論	A	1	松島英介	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日	6月29日
						松島英介	野口 海	小川朝生	清水 研	大西秀樹
		緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ	A	1	松島英介 山田陽介	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日	7月6日
						山田陽介	吉澤明孝	田中佳子	堀 夏樹	三枝好幸
緩和応用		症状マネジメント(基本編)	A	1	松島英介 山田陽介	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日
						下山直人	林 章敏	小澤美和	高野利実	小澤竹俊
		症状マネジメント(応用編)	A	1	松島英介 山田陽介	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日	7月27日
						行田泰明	市川雄二	的場元弘	樋口比登実	永井英明
		緩和医療におけるリエゾン精神医学特論 (予定)	A	1	未定	7月30日	7月31日	8月1日	8月2日	8月3日

種別		科 目 名	備考	単位	科目責任者	担当教員及び分担詳細科目				
						1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
がん治療専門看護師養成コース										
CNS 共通科目		看護学研究法特論	B	2	大久保功子	前期 月曜日 3・4時限				
		看護教育学特論	B	2	井上智子	後期 木曜日 4・5時限				
		看護政策学特論	B	2	深掘浩樹	後期 火曜日 1・2時限				
		看護管理学特論	B	2	深掘浩樹	前期 火曜日 1・2時限				
CNS 専門科目 (がん看護)		在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-1	B	2	本田彰子	前期 月曜日 1・2時限				
		在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-2	B	2	本田彰子	前期 金曜日 1・2時限				
		看護病態生理学	B	2	本田彰子	前期 木曜日 4時限				
		在宅ケア・緩和ケア看護学演習A	B	2	本田彰子	後期 火曜日 3・4時限				
		在宅ケア・緩和ケア看護学特論B	B	2	本田彰子	後期 月曜日 3時限				
		在宅ケア・緩和ケア看護学演習B	B	2	本田彰子	後期 月曜日 4・5時限				
医学物理士養成コース・放射線治療品質管理士コース（がん医歯工学連携研究者養成コース 予定）										
基礎		医歯工学概論	C	1	小杉幸夫	8月27日～8月31日 18:30～20:45				
		人間安全工学	C	1	伊能教夫	9月3日～9月7日 15:45～18:00				
		人体機能学	C	1	高瀬浩造	9月3日～9月7日 18:30～20:45				
		人体解剖・病態学	C	1	高瀬浩造	9月10日～9月14日 18:30～20:45				
医学物理 ・医工学		医用画像情報学	C	2	小尾高史	9月10日～9月14日、9月24日～9月28日 9:55～12:10				
		放射線物理学・放射線技術学特論	C	1	三浦雅彦	9月24日～9月28日 18:30～20:45				
		医用放射線生物学	C	1	三浦雅彦	10月1日～10月5日 18:30～20:45				
		医用放射線診断学・核医学	C	1	大橋 勇	10月15日～10月19日 18:30～20:45				
		放射線治療学	C	1	渋谷 均	10月9日～10月12日 18:30～20:45				
		放射線治療物理学	C	2	河野俊之	10月22日～10月26日、10月29日～11月2日 18:30～20:45				
		核医学物理学	C	1	河野俊之	10月22日～10月26日 15:45～18:00				
		医用放射線発生装置学	C	1	小栗慶之	10月29日～11月2日 15:45～18:00				
		医療機器開発概論	C	2	小杉幸夫	9月24日～9月28日、10月1日～10月5日 15:45～18:00				
		放射線医療実習	C	1	河野俊之	土曜午後5回適度				
実務		放射線治療品質管理学演習	A	2	三浦雅彦					
病院実習										
病院実習		低侵襲がん治療病院実習（予定）								
		がん臨床研究・エビデンス実践医療実習（予定）								
		がん放射線療法病院実習								
		がん化学療法病院実習								
		緩和ケア病院実習								
		在宅ケア・緩和ケア看護学実習				1年後期、2年前期・後期				
		放射線測定実習								
		放射線病院実習								

A: 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科
B: 東京医科歯科大学 保健衛生学研究科
C: 東京工業大学 医歯工学特別コース(CIC 田町)

平成24年度 次世代がん治療推進専門家養成プラン カレンダー

月	日	時 限	月	火	水	木	金	講義場所	科 目 責 任 者	備 考	
4月	23～27	1 2	がんの分子生物学概論					A	湯浅保仁		
5月	7～11	1 2	がんの病理・病態学概論					A	江石義信		
	14～18	1 2	がんのシステム生物学概論					A	田中 博		
	21～25	1 2	がんの社会医学概論					A	植竹宏之		
	28～6/1	1 2	がんの細胞生物学概論					A	水谷修紀		
	6月	4～8	1 2	低侵襲がん治療Ⅰ（鏡視下手術）（予定）					A	植竹宏之	
		11～15	1 2	低侵襲がん治療Ⅱ（鏡視下手術）（予定）					A	植竹宏之	
18～22		1 2	緩和医療学概論					A	松島英介 荻原隆二		
25～29		1 2	精神腫瘍学特論					A	松島英介		
7月		2～6	1 2	緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ					A	松島英介 山田陽介	
		9～13	1 2	症状マネジメント(基本編)					A	松島英介 山田陽介	
	23～27	1 2	症状マネジメント(応用編)					A	松島英介 山田陽介		
	30～8/3	1 2	緩和医療におけるリエゾン精神医学特論（予定）					A	未定		
	8月	27～31	18:30～ 20:45	医歯工学概論					C	小杉幸夫	
	9月	3～7	15:45～ 18:00	人間安全工学					C	伊能教夫	
3～7		18:30～ 20:45	人体機能学					C	高瀬浩造		
10～14		18:30～ 20:45	人体解剖・病態学					C	高瀬浩造		
10～14		9:55～ 12:10	医用画像情報学					C	小尾高史		
24～28		18:30～ 20:45	放射線物理学・放射線技術学特論					C	三浦雅彦	専門医師コース、 コメディカルコース共通講義	
24～28		15:45～ 18:00	医療機器開発概論					C	小杉幸夫		
10月		1～5	18:30～ 20:45	腫瘍放射線生物学特論/医用放射線生物学					C	三浦雅彦	専門医師コース、 コメディカルコース共通講義
	9～12	18:30～ 20:45		腫瘍放射線治療学特論/放射線治療学				C	渋谷 均	専門医師コース、 コメディカルコース共通講義	
	15～19	18:30～ 20:45	腫瘍診断学・核医学特論/医用放射線診断学・核医学診断学					C	大橋 勇	専門医師コース、 コメディカルコース共通講義	
	22～25	1 2	抗がん剤薬理学概論Ⅰ					A	安原真人		
	22～26	15:45～ 18:00	核医学物理学					C	山谷泰賀		
	22～26	18:30～ 20:45	放射線治療物理学					C	河原俊之		
	29～11/2	15:45～ 18:00	医用放射線発生装置学					C	小栗慶之		
	29～11/2	1 2	抗がん剤薬理学概論Ⅱ			抗がん剤薬理学概論Ⅱ	A	安原真人			
	11月	5～9	1 2	東京薬科講義(予定)					A	未定	
		12～16	1 2	頭頸部がんの診療					A	岸本誠司	
19～22		未定	臓器別がんの診療（曜日未定）					A	未定		
26～30		未定	臓器別がんの診療（曜日未定）					A	未定		
12月	3～7	1 2	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ（予定）					A	植竹宏之		
	17～21	1 2	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅱ（予定）					A	植竹宏之		

1限: 18:30～19:50

2限: 19:50～21:10

質疑応答: 21:10～21:30

A: 東京医科歯科大学 M&Dタワー11F 大学院講義室3

C: 東京工業大学 医歯工学特別コース(CIC 田町)

種別	科目名	備考	単位	専門医師					メディカルスタッフ			研究者 がん医歯工学 連携研究者 (予定)	インテンシブ 候補科目	
				低侵襲がん治 療専門医師 (予定)	がん臨床研究・ エビデンス実践 医療人(予定)	放射線専 門医師	化学療法 専門医師	緩和医療 専門医師	がん看護 CNS	医学物理 士	放射線治 療品質管 理士			
[総合基礎]														
総合基礎	がんの分子生物学概論	A	1	○	○	●	●	○		○	●		★	
	がんの細胞生物学概論	A	1	○	○	●	●	○		○	●		★	
	がんの病理・病態学概論	A	1	○	○	●	●	○	○				★	
	がんのシステム生物学概論	A	1	○	○	○	○	○						
(MMA)	がんの社会医学概論	A	1	○	○	○	○	○					★	
総合演習 包括的がん治療学演習		A	1	○	○	●	●	●	○	●	●		★	
[専門医養成コース]														
発展	低侵襲がん治療Ⅰ(鏡視下手術)(予定)	A	1	●		○	○	○					★	
	低侵襲がん治療Ⅱ(集学治療)(予定)	A	1	●		○	○	○						
	頭頸部がんの診療	A	1			○	○	○					★	
	臓器別がんの診療(シンポジウムの予定)	A	1			○	○	○					★	
	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ(予定)	A	1		●		○	○						
	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅱ(予定)	A	1		●		○	○					★	
	放射線基礎	放射線物理学・放射線技術学特論	C	1	○	○	●						★	
	腫瘍放射線生物学特論	C	1	○	○	●						★		
	腫瘍放射線診断学・核医学特論	C	1	○	○	○						★		
放射線応用	腫瘍放射線治療学特論	C	1	○	○	●						★		
化学療法	抗がん剤薬理学概論Ⅰ	A	1	○	○		●					★		
	抗がん剤薬理学概論Ⅱ	A	1	○	○		●					★		
	東京薬科大担当科目(予定)	A	1	○	○		●					★		
緩和基礎	緩和医療学概論	A	1					●				★		
	精神腫瘍学特論	A	1					●				★		
緩和応用	緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ	A	1					●				★		
	症状マネジメント(基本編)	A	1					●				★		
	症状マネジメント(応用編)	A	1					●				★		
	緩和医療におけるリゾン精神医学特論(予定)	A	1			○	○	○				★		
[がん治療専門看護師養成コース]														
CNS共通科目	看護研究法特論	B	2						●					
	看護教育学特論	B	2						●					
	看護政策学特論	B	2						●					
	看護管理学特論	B	2						●					
CNS専門科目 (がん看護)	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-1	B	2						●					
	在宅ケア・緩和ケア看護学特論A-2	B	2						●					
	看護病態生理学	B	2						●					
	在宅ケア・緩和ケア看護学演習A	B	2						●					
	在宅ケア・緩和ケア看護学特論B	B	2						●					
	在宅ケア・緩和ケア看護学演習B	B	2						●					
									●					
[医学物理士コース・放射線治療品質管理士コース][がん医歯工学連携研究者養成コース予定]														
基礎	医歯工学概論	C	1							●	●	○		
	人間安全工学	C	1							●	●	○		
	人体機能学	C	1							●	○	○		
医学物理・医工学	人体解剖病態学	C	1							●	○			
	医用画像情報学	C	2							●	○	○		
	放射線物理学・放射線技術学特論	C	1							●	○			
	医用放射線生物学	C	1							●	●	○		
	医用放射線診断学・核医学	C	1							●	○	○		
	核医学診断学	C	1							●	○			
	放射線治療学	C	1							●	●	○		
	放射線治療物理学	C	2							●	●			
	核医学物理学	C	1							●	●	○		
	医用放射線発生装置学	C	1							●	●			
	医療機器開発概論	C												

● 必修科目
○ 選択科目

日本がん治療認定医機構のセミナー科目内容に対応

平成24年度開講予定のコース一覧

開講時期	大学	コース
平成24年4月～10月	東京医科歯科大学	低侵襲がん治療専門医養成コース
	東京医科歯科大学	がん臨床研究・エビデンス実践医療人養成コース
	秋田大学	地域がん医療包括推進医療人養成コース
	東京医科大学	がん低侵襲治療専門医育成コース
	東京工業大学	がん医歯工学連携研究者養成コース
	弘前大学	地域・院内がん登録の登録士育成コース (インテンシブ)

がん専門医師養成コース

がんプロシラバス

種別:総合基礎

科目名:がんの分子生物学概論 (Molecular and Cellular Biology of Cancer)

科目担当責任教員:

湯浅保仁 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 教授 (yuasa.monc@tmd.ac.jp)

科目担当教員:(講義順)

秋山好光 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 講師

深町博史 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 講師

澁谷正史 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 客員教授
学校法人学文館上武大学副学長、東京大学名誉教授

島田 周 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 助教

授業予定日:平成 24 年 4 月 23 日(月) ~ 4 月 27 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- * がん遺伝子とがん抑制遺伝子の機能、およびがん発症におけるそれら 遺伝子の異常について理解する。
- * 発がん物質、がん化に関連する感染症、遺伝性がんについて理解する。
- * がんの分化制御因子と、分化誘導療法について理解する。
- * がんと血管の関わり、およびがんの血管新生阻害療法について理解する。

(2) 授業の概要

発がんの分子機構の理解に重要ながん遺伝子とがん抑制遺伝子の種類および機能的役割について説明する。さらに、これらの遺伝子のヒトがんにおける異常や検出法、発がん物質・分化・血管新生などとの関連について解説する。また、がんの増殖・悪性化における血管新生の意義、分化誘導療法の有用性についても述べる。

2) 授業計画

4 月 23 日(月)	(担当:秋山)	がん遺伝子とがん抑制遺伝子
4 月 24 日(火)	(担当:湯浅)	発がん物質、がん化に関連する感染症
4 月 25 日(水)	(担当:深町)	がんと分化
4 月 26 日(木)	(担当:渋谷)	がんと血管新生
4 月 27 日(金)	(担当:島田)	遺伝性がん

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

がんの分子生物学のトピックスは、発がん過程だけでなく、最新のがん治療とも関連が深い。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

ワインバーグ著、武藤誠他訳「がんの生物学」南江堂 2008 年出版: R.A.Weinberg 著「The biology of cancer」Garland Science, 2007 の日本語訳である。がん関連遺伝子、がんウイルス、シグナル伝達、細胞増殖、血管新生、転移、がん免疫などがんの基礎的知見についてわかりやすく網羅している好著である。

日本語では、いくつかの雑誌(「実験医学」、「細胞工学」、「蛋白質・核酸・酵素」など)の特集や、その他の総説集は、理解の参考になる。

6) ハンドアウトの有無

有り

がんプロシラバス

種別:総合基礎

科目名:がんの病理・病態学概論 (Overview of cancer: pathology and anatomy)

科目担当責任教員:

江石義信 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
人体病理学分野 教授

科目担当教員:(講義順)

北川昌伸 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
包括病理学分野 教授

小林大輔 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
人体病理学分野 助教

倉田盛人 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
包括病理分野 助教

明石 巧 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
病理診断科学分野 准教授

沢辺元司 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科
分子病態検査学分野 教授

秋田恵一 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床解剖学分野 教授

授業予定日:平成 24 年 5 月 7 日(月) ～ 5 月 11 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・ 医療における癌の病理診断(良性と悪性、浸潤や転移)について、その方法と診断までの過程について理解する。
- ・ 癌の悪性度判断の重要性について、治療法との関連において理解する。
- ・ 早期癌の診断と治療について、進行癌との対比において理解する。
- ・ 治療による癌病巣の変化について理解する。
- ・ 癌の転移経路となるリンパ行路について理解する。
- ・ 癌の動注療法に用いられる動脈配置について理解する。

(2) 授業の概要

医療における病理診断の実例を題材として、癌の良性悪性、浸潤や転移がどのように観察され、診断されているのかを解説する。また一口に癌と言っても悪性度は様々であり、それによって治療方針なども異なるので、病理の立場からその情報が臨床の現場でどのように行かされているのか

を解説する。

わが国は癌の早期診断が進歩しており、諸外国に比べ早期癌の診断・治療の機会が多いので、実例を示しながらその診断と治療について解説する。

化学療法や放射線治療によって癌の病巣はどのように変化するのかについて解説し、さらに各臓器に発生する癌の姿はどのように異なるかについて、その発生母地の違いの観点から解説する。

さらに解剖学的観点から、癌治療ならびに癌の転移の理解に必要な、脈管系を中心とした解剖学について解説する。

2) 授業計画

5月 7日(月)	(担当:江石)	癌の良性悪性診断
	(担当:北川)	癌の浸潤と転移
5月 8日(火)	(担当:小林)	癌の異型度と悪性度
	(担当:倉田)	早期癌と進行癌
5月 9日(水)	(担当:明石)	癌と治療効果
	(担当:沢辺)	癌の発生部位と多様性
5月10日(木)	(担当:秋田)	胸腹部ならびに骨盤部の動脈配置
5月11日(金)	(担当:秋田)	胸腹部ならびに骨盤部のリンパ系の解剖学

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

解剖学、組織学

(2) 他の授業科目との関連性

癌の発生や進展の基礎について、細胞生物学総論、分子生物学概論の内容と関連する。

4) 学生への評価方法

出席状況、および授業の最後に行う小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

特になし

がんプロシラバス

種 別:総合基礎

科目名:がんのシステム生物学概論 (Cancer Systems Biology)

科目担当責任教員:

田 中 博 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
システム情報生物学分野 教授

科目担当教員:(講義順)

高 井 貴 子 バイオサイエンスデータベースセンター 特任准教授

飯島久美子 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
システム情報生物学分野 特任助教

茂 櫛 薫 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
システム情報生物学分野 特任助教

荻 島 創 一 東京医科歯科大学難治疾患研究所 ゲノム応用医学研究部門
生命情報学分野 助教

授業予定日:平成 24 年 5 月 14 日(月) ～ 5 月 18 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ①システム生物学、オミックス情報学の基本的概念について理解する。
- ②がんにおけるゲノム異常、遺伝子発現異常などの実例を学ぶ
- ③がんの遺伝子発現解析について、パスウェイマップ等を用いて解析する手法を学ぶ

(2) 授業の概要

近年の網羅的分子計測法の発展により、ゲノム情報のみならず、トランスクリプトーム・プロテオームなどの各手法において、ハイスループットな解析が可能になった。これらの網羅的分子情報は、オミックス情報と総称される。オミックス情報は、これまでの臨床情報や病理情報、あるいは生活習慣環境情報と関連付けることによって、分子から個体レベルまで総体として疾患のメカニズムを理解できるだけでなく、従来にはない精度で疾患の経過、重症化、予後を予測できると期待されている。

こうしたシステム生物学、オミックス情報学の基本的概念とがんの診断や治療における個別化、およびがんの予防における有用性について概説する。

2) 授業計画

- | | | |
|----------|---------|-----------------------|
| 5月14日(月) | (担当:田中) | がんのシステム生物学概論 |
| 5月15日(火) | (担当:高井) | 疾患データベースとトランスレーショナル研究 |
| 5月16日(水) | (担当:飯島) | がんのシステム生物学の実験手法 |
| 5月17日(木) | (担当:茂櫛) | がんのシステム解析 |
| 5月18日(金) | (担当:荻島) | がんのシステム生物学 |

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

がんに関する分子生物学的な研究の概要を理解していることが望ましい

(2) 他の授業科目との関連性

他の総合基礎科目ならびに最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。

(3) その他

これからの時代のがん臨床研究に興味ある学生の聴講を期待する。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

授業において紹介する

6) ハンドアウトの有無

有り

がんプロシラバス

種 別:総合基礎

科目名:がんの社会医学概論 (Social medicine of cancer)

科目担当責任教員:

植竹宏之 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
応用腫瘍学講座 准教授

科目担当教員:(講義順)

河原和夫 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
政策科学分野 教授

中山健夫 京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻健康情報学分野 教授

富田 誠 東京医科歯科大学医学部附属病院
臨床試験管理センター 特任准教授

小池竜司 東京医科歯科大学医学部附属病院
臨床試験管理センター 准教授

吉田雅幸 東京医科歯科大学学内共同教育研究施設
生命倫理研究センター センター長(命)教授

授業予定日:平成 24 年 5 月 21 日(月) ～ 5 月 25 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 疫学の基本的考え方・方法論を理解し、臨床・研究・健康政策の検討に活用する基礎を学ぶ。
- ② 医療統計の基礎と臨床研究・治験を行うために必要な統計学を理解する。
- ③ 臨床研究・治験を行う際に理解しておくべき倫理学を学ぶ。
- ④ 地域医療計画、特にがんに関する医療計画を学ぶ。
- ⑤ 治験・臨床試験に関する基本的法規・規制および倫理的指針を理解し、その計画・実施・評価に関する基本的知識を習得する。

(2) 授業の概要

- ① 疫学の基本的な考え方である、母集団、バイアス、交絡、比較などを解説し、疫学研究の方法論として記述疫学、観察疫学(コホート研究、症例対照研究)、介入研究などの実例

を紹介する。

- ② 臨床研究・治験に必要な医療統計学の理論と実際を講義する。
- ③ 臨床研究・治験を行う際に、留意すべき倫理的問題について解説する。
- ④ 地域医療計画の概要と、がんに関する医療計画の政策策定および実施計画について解説する。
- ⑤ 治験・臨床試験を計画・評価するために必要な知識を解説する。さらにがん治療に関する治験・臨床試験の特徴や問題点、新規試験の計画や実臨床への応用についても解説する。

2) 授業計画

5 月 21 日(月)	(担当:河原)	がん地域医療計画
5 月 22 日(火)	(担当:中山)	疫学
5 月 23 日(水)	(担当:富田)	統計
5 月 24 日(木)	(担当:小池)	治験と臨床試験
5 月 25 日(金)	(担当:吉田)	倫理

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業科目との関連性

社会医学は臨床研究、Evidence-based medicine (EBM)の基盤であり、他科目と密接に関係している。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートによって評価する

5) 教科書・参考書など

(以下購入の必要はなし)

- ①中村好一著 基礎から学ぶ楽しい疫学 (医学書院)、青山英康監修 今日の疫学(第 2 版) (医学書院)川村孝著 エビデンスをつくる (医学書院)、
J Last. A Dictionary of Epidemiology (4th ed). (Oxford University Press) (日本疫学会 疫学辞典 第 3 版 日本公衆衛生協会)

6) ハンドアウトの有無

スライド資料を当日配布。

がんプロシラバス

種別：総合基礎

科目名：がんの細胞生物学概論 (Biology of Cancer Development)

科目担当責任教員：

水谷修紀 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
発生発達病態学分野 教授

科目担当教員：(講義順)

中釜 斉 国立がん研究センター研究所 所長
畑 裕 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
病態代謝解析学分野 教授
清水重臣 東京医科歯科大学難治疾患研究所
病態細胞生物学分野 教授
寺岡弘文 東京医科歯科大学 名誉教授
吉岡研一 国立がん研究センター研究所
ゲノム安定性研究分野 主任研究員
高木正稔 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
発生発達病態学分野 講師

授業予定日：平成 24 年 5 月 28 日(月) ～ 6 月 1 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ☐ 細胞形態から物質代謝・エネルギー代謝も含め、正常細胞との違いに基づいて、がん細胞の特性を理解する。
- ☐ がんで最も深刻な転移について、細胞接着や細胞極性の基本的知識を基盤にして理解する。
- ☐ 年長者のがんに比較して、その治療や予後が異なる遺伝性・弧発性の小児がんについて基本知識を習得し、その生物学的特徴を理解する。
- ☐ 細胞の運命に直結する、細胞死・細胞の寿命、細胞増殖・細胞周期、DNA損傷修復について、特にがんとの関係を重点に理解する。
- ☐ 細胞の形質転換に関する定説・新説、ならびに、がん幹細胞や関連するES細胞・iPS細胞について理解する。

(2) 授業の概要

生命の基本単位である細胞について、正常細胞とがん細胞の違いを重点に解説する。また、

細胞の運命（増殖、分化、細胞死、形質転換）に関して、細胞周期、DNA損傷応答・修復も含め、最新の知見にも言及する。

2) 授業計画

5月28日（月）	（担当：中釜）	がん細胞の特性 (Cancer Cell Properties)
5月29日（火）	（担当：畑）	がん転移とがん細胞の代謝 (Cancer metastasis and cancer cell metabolism)
5月30日（水）	（担当：水谷）	がんの遺伝性と非遺伝性 (Inheritability and non-inheritability of cancer)
	（担当：寺岡）	細胞の寿命 (DNA repair and cancer)
5月31日（木）	（担当：寺岡）	細胞の形質転換機構とがん化の防御(I) (Cancer stem cells and pluripotent stem cells)
	（担当：清水）	がん細胞と細胞死 (Cancer and Cell Death)
6月1日（金）	（担当：吉岡）	細胞の形質転換とがん化の防御(II) (Cellular transformation and cancer prevention)
	（担当：高木）	がんと細胞周期 (Cell cycle regulation and cancer development)

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特にはないが、細胞について基礎的なことは理解しておくこと。

(2) 他の授業科目との関連性

がんの分子生物学概論と関連する。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポート、あるいは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし。

6) ハンドアウトの有無

有り。

がんプロシラバス

種別:総合発展

科目名:頭頸部がんの診療 (Head and Neck Cancer)

科目担当責任教員:

岸本誠司 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
頭頸部外科学分野 教授

科目担当教員:(講義順)

杉本太郎 東京医科歯科大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科学分野 講師

久保田彰 神奈川県立がんセンター頭頸部外科 部長

根本 繁 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
血管内治療学分野 教授

渋谷 均 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
腫瘍放射線医学分野 教授

鵜澤成一 東京医科歯科大学歯学部附属病院
回復系診療科 顎顔面外科外来(顎顔面外科学)講師

谷口 尚 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
顎顔面補綴学分野 教授

原田浩之 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
顎口腔外科学分野 准教授

岡崎 睦 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
形成・再建外科学分野 教授

菅澤 正 埼玉医科大学国際医療センター頭頸部腫瘍科 教授

授業予定日:平成 24 年 11 月 12 日(月) ～ 11 月 16 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ①頭頸部がんにおける TNM 病期分類、病期の決定法、各病期の標準的治療、および合併症の管理について理解する。
- ②頭頸部がんにおける放射線診断、核医学診断の適応について理解する。
- ③頭頸部がんにおける集学的治療の重要性について理解する。
- ④機能や形態を考慮した頭頸部がん治療法について理解する。

(2) 授業の概要

頭頸部領域がん(頭蓋底、聴器、鼻副鼻腔、口腔、顔面、上中下咽頭、喉頭、頸部食道、甲状腺、頸部など)における、機能や形態を考慮した再建を含む外科的療法、さらに放射線療法、化学療法、血管内治療を組み合わせた集学的治療について解説する。また、口腔、中咽頭がんに対する低線量率小線源治療の有用性と臨床の実際について講述し、その際に利用される補綴装置の意義や術後のエピテーゼの役割、さらに高齢者社会における頭頸部がん治療の問題点についても言及する。

2) 授業計画

11 月 12 日(月)	(担当:杉 本)	頭頸部がん概論
	(担当:久保田)	頭頸部がんの薬物療法
11 月 13 日(火)	(担当:岸 本)	頭蓋底・顔面深部の外科
	(担当:根 本)	頭頸部腫瘍に対する血管内治療
11 月 14 日(水)	(担当:渋谷)	口腔、中咽頭がんの小線源治療
	(担当:鵜 澤)	口腔がんにおける遺伝子診断
11 月 15 日(木)	(担当:原 田)	口腔がんの集学的治療
	(担当:谷 口)	頭頸部がん治療におけるエピテーゼの役割
11 月 16 日(金)	(担当:岡 崎)	頭頸部がん治療における再建外科
	(担当:菅 澤)	高齢者頭頸部がんの治療 - 今後の課題

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

有り

授業開催場所：東京工業大学町田キャンパス(CIC)

科目名：放射線基礎	1. 放射線物理学・技術学特論
	2. 腫瘍放射線生物学特論
	3. 腫瘍放射線診断・核医学特論
放射線応用	4. 腫瘍放射線治療学特論

科目担当責任教員： 1, 2. 三浦雅彦 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
口腔放射線腫瘍学分野 教授

3. 大橋 勇 東京医科歯科大学医学部附属病院放射線部 准教授

4. 澁谷 均 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
腫瘍放射線医学分野 教授

科目担当教員：授業計画参照

1. 平成24年 9月24日(月)～28日(金)
2. 平成24年10月 1日(月)～ 5日(金)
3. 平成24年10月15日(火)～19日(金)
4. 平成24年10月 9日(月)～12日(金)

(1) 授業の目標

(2) 授業の概要

1. 技術としての放射線分野の基礎および応用について解説する。また、臨床における放射線防護についても解説する。
2. 放射線が生物に対して与える影響について、分子レベル、細胞レベル、個体レベル、および集団レベルで論じる。また、病態・疾患との関連について講じる。
3. 放射線科領域における磁気・超音波を含めた診断技法の原理および概要を講じるとともに、それぞれの適応と臨床応用の実際についても論じる。
4. 医療における放射線治療の意義とその応用範囲、線量測定・治療計画の方法論、他の治療法との関連および副作用・安全管理について論じる。

4. 授業計画

講義時間 18:45～20:45

科 目 名	科目責任者	担当教員及び分担詳細科目				
		1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目	5 日 目
放射線物理学・放射線 技術学特論	三浦雅彦	9 月 24 日	9 月 25 日	9 月 26 日	9 月 27 日	9 月 28 日
		阿部慎司	阿部慎司	阿部慎司	未定	未定
腫瘍放射線生物学特論	三浦雅彦	10 月 1 日	10 月 2 日	10 月 3 日	10 月 4 日	10 月 5 日
		三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	渡邊 裕	三浦雅彦
腫瘍放射線診断学・核 医学特論	大橋 勇	10 月 15 日	10 月 16 日	10 月 17 日	10 月 18 日	10 月 19 日
		大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	鳥井原彰	鳥井原彰
腫瘍放射線治療学特論	澁谷 均	祝日	10 月 9 日	10 月 10 日	10 月 11 日	10 月 12 日
			澁谷 均	澁谷 均	澁谷 均	澁谷 均

2) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

3) 学生への評価方法

試験によって評価する。

4) 教科書・参考書など

特になし

5) ハンドアウトの有無

特になし

6) 講義で使用するメディアの種別

PC + プロジェクター

がんプロシラバス

種別:化学療法

科目名:抗がん剤薬理学Ⅰ・抗がん剤薬理学Ⅱ

(Pharmacology of Anticancer DrugsⅠ、Ⅱ)

科目担当責任教員:

安原真人 東京医科歯科大学医学部附属病院
薬剤部 教授 (yasuhara.mpha@tmd.ac.jp)

科目担当教員:(講義順)

谷川原祐介 慶應義塾大学医学部臨床薬理学 教授
岡田弘晃 東京薬科大学 名誉教授
玉井郁巳 金沢大学医薬保健学域薬学類・創薬科学類
薬物動態学 教授
三木義男 東京医科歯科大学難治疾患研究所
分子遺伝学分野 教授
永田将司 東京医科歯科大学医学部附属病院
薬剤部 准教授
小竹良彦 エーザイ株式会社 オンコロジーPCU 主幹研究員
林良雄 東京薬科大学薬学部薬品化学 教授

授業予定日:Ⅰ平成24年10月22日(月)～10月26日(金)

:Ⅱ平成24年10月29日(月)～11月2日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・作用メカニズムに基づく抗がん剤の分類を理解し、抗体医薬や分子標的薬の具体例を学び、合理的な化学療法の設計法について考察する。
- ・抗がん剤の体内動態や作用に関わるトランスポーターについて学び、抗がん剤の臨床薬理を理解する。
- ・抗がん剤治療の最適化を目指したドラッグデリバリーシステムの概念と具体例を学ぶ。
- ・抗がん剤に対する感受性や副作用の有無を患者個別に予測するためのゲノム情報の活用につき学ぶ。
- ・新規抗がん剤の創製に向けたメディシナルケミストリーのアプローチを学ぶ。

(2) 授業の概要

アルキル化剤から分子標的治療薬まで、多様な抗がん剤の作用メカニズムを概観し、ヒト化抗体医薬や分子標的薬の開発と臨床応用の具体例を紹介する。抗がん剤の吸収・分布・代謝・排泄や腫瘍組織への移行過程における薬物トランスポーターの関わりやその変動因子について考察する。有効性と安全性という観点から、PK/PDに基づく合理的な抗がん剤の投与設計や具体的な抗がん

剤の調製における注意点につき講述する。抗がん剤の選択的な腫瘍組織への送達や薬物濃度の制御を可能とするドラッグデリバリーシステムの進歩について解説する。さらに、個々のがん患者に対して最適な化学療法を提供する、いわゆるテーラーメイド医療の実現に向けた、ファーマコゲノミックスの取り組みについて講述する。新規抗がん剤の創製に向けて、抗体医薬やメディシナルケミストリーのアプローチを紹介する。

2) 授業計画

10月22日(月)	(担当:安 原)	抗がん剤薬理学概説
10月23日(火)	(担当:谷川原)	抗がん剤の臨床薬理学
10月24日(水)	(担当:岡 田)	抗がん剤のドラッグデリバリーシステム
10月26日(木)	(担当:玉 井)	抗がん剤とトランスポーター
10月29日(月)	(担当:三 木)	抗がん剤のファーマコゲノミックス
10月30日(火)	(担当:永 田)	抗がん剤の血中濃度モニタリング
11月 1日(木)	(担当:小 竹)	分子標的薬の開発
11月 2日(金)	(担当: 林)	チューブリンを標的とする抗がん剤の創製

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習
特になし
- (2) 他の授業科目との関連性
- (3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

有り

がんプロシラバス

種 別：緩和基礎

科目名：緩和医療学概論 (Palliative Medicine: Outline)

科目担当責任教員：

松 島 英 介	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 心療・緩和医療学分野 准教授 (em.lppm@tmd.ac.jp)
荻 原 隆 二	国家公務員共済組合連合東京共済病院 介護老人保健施設ケアなかめぐろ 施設長

科目担当教員：(講義順)

鈴 木 莊 一	鈴木内科医院 院長
松 下 年 子	埼玉医科大学保健医療学部看護学科 教授
小池眞規子	目白大学人間学部心理カウンセリング学科 教授
富 田 伸	聖隷佐倉市民病院脳神経外科 部長

授業予定日：平成 24 年 6 月 18 日（月）～ 6 月 22 日（金）

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

わが国の緩和医療は当初、治癒を目的とした医療に対して反応しなくなった、主にがん患者に行われる疼痛緩和を中心としたいわばみとりの医療であったが、その後、治療の早期から適応されるようになり対象が広がった。今後実施される多方面からアプローチする講義の理解を深める準備として全体像を概観する。また、患者の全体像を評価する QOL についての知識と、こうした患者やその家族に接する際のコミュニケーション・スキルについて習得できるようにすることも目標である。

(2) 授業の概要

緩和医療について、その理念、目的、意義、および実態について概観する。また、ホスピスや緩和ケア病棟での緩和ケア、在宅での緩和ケアについて、実際の臨床現場に即して解説する。さらに、緩和医療の際の最も基本である、全人的な痛みを評価するための QOL 尺度の説明や応用、および患者やその家族とのコミュニケーションについて、実例をまじえて講義を行う。

2) 授業計画

- 6月18日(月) (1限、2限 担当：荻原) 緩和医療学入門
6月19日(火) (1限、2限 担当：鈴木) 在宅緩和ケア
6月20日(水) (1限、2限 担当：松下) 緩和ケアにおけるQOLの評価
6月21日(木) (1限、2限 担当：小池) 緩和ケアにおけるコミュニケーション
6月22日(金) (1限、2限 担当：富田) ホスピス・緩和ケア病棟での緩和ケア

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業との関連性

精神腫瘍学特論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。

(3) その他

すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine (Fourth Edition): Geoffrey WC Hanks, Nathan

I. Cherny, ほか編 2010

在宅医療・介護基本手技マニュアル改訂第2版 谷亀光則編 永井書店 2005

在宅での看取りと緩和ケア 佐藤 智、鈴木荘一、村松静子編 中央法規 2008

ひとはなぜ、人の死を看とるのか 鈴木荘一 著 人間と歴史社

臨床のためのQOL評価ハンドブック 池上直己ほか編 医学書院 2001

臨床面接技法－患者との出会いの技

Billings JA, Stoeckle JD 日野原重明ほか訳 医学書院 2001

メディカル・インタビュー マニュアル－医師の本領を生かすコミュニケー

ション技法 福井次矢 インターメディカ (第3版) 2002

患者と医師のコミュニケーション

Debra L, Hall R, Hall JA 石川ひろの他訳 篠原出版新社 2007

がん医療におけるコミュニケーション・スキル－悪い知らせをどう伝えるか

内富庸介 藤森麻衣子 医学書院 2007

SPIKES-BC 乳がん診療におけるコミュニケーション・スキルを学ぶ

Team SPIKES-BC (編纂) 時報 2007

Buckman R 恒藤暁ほか訳 診断と治療社 2000

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

がんプロシラバス

種 別：緩和基礎

科目名：精神腫瘍学特論 (Psycho-oncology: Introduction)

科目担当責任教員：

松島英介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
心療・緩和医療学分野 准教授 (em.lppm@tmd.ac.jp)

科目担当教員：(講義順)

清水 研 国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科 副科長
野口 海 メンタル・コンシェルジュ 代表
慶應義塾大学大学院政策メディア研究科 准教授
大西秀樹 埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科 教授
小川朝生 国立がん研究センター東病院 臨床開発センター
精神腫瘍学開発部 室長

授業予定日：平成 24 年 6 月 25 日(月) ～ 6 月 29 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者やその家族のところに目を向け、身体的側面だけではなく精神的側面についても把握できるようにする。そのためには、がん患者の誰もが抱えるストレスから、治療に必要な精神症状まで、幅広く理解しておくことが必要である。これらをもとに、個々のがん患者に対する対応および、精神症状に対する診断や治療ができるようにする。また、患者家族や遺族の精神状態の把握や心理的介入、治療ができるようにする。

(2) 授業の概要

精神腫瘍学の意義に始まり、がん患者のストレス、コーピング・スタイル、精神症状でもよく認められる不安・抑うつ・診断と治療、絶望感や自殺の問題とその対応、せん妄の診断とその対策、がん患者の家族に対する理解や対応、遺族のケア、終末期の患者のスピリチュアリティや尊厳の問題など、症例を上げながら解説し、患者を包括的、全人的に診療していく姿勢を身につけていただく。

2) 授業計画

6 月 25 日 (月) (1 限、2 限)	担当：松島	精神腫瘍学入門
6 月 26 日 (火) (1 限、2 限)	担当：野口	終末期の精神医学的問題
6 月 27 日 (水) (1 限、2 限)	担当：小川	せん妄とその対策
6 月 28 日 (木) (1 限、2 限)	担当：清水	抑うつ・不安および自殺とその対応
6 月 29 日 (金) (1 限、2 限)	担当：大西	家族と遺族のケア

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

前の週に開講される「緩和医療概論」は関連が深いので、是非受講していただきたい。

(3) その他

活発な質疑を期待しているので、積極的な姿勢で受講していただきたい。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

日本サイコオンコロジー学会ホームページにある E-ラーニング

(<http://www.jpso-society.org/elearning/>)

明智龍男著：がんところのケア。NHK ブックス 975, 2003 年

内富庸介監訳：緩和医療における精神医学ハンドブック。星和書店、東京、2001 年

Handbook of Psychooncology (eds. Holland JC, Rowland JH), Oxford

University Press, New York, 1990. (河野博臣, 濃沼信夫, 神代尚芳監訳：サイコオン
コロジー第 1 版。メディアサイエンス社、東京、1993 年)

Psycho-Oncology 2nd edition (eds. Holland JC et al), Oxford University Press, New York, 2010.

Handbook of Psychiatry in Palliative Medicine 2nd edition. (eds. Chochinov HM, Breitbart W),
Oxford University Press, New York, 2009.

大西秀樹著：がん患者の心を救う。河出書房新社、2008 年

日本サイコオンコロジー学会教育委員会監修：緩和ケアチームのための精
神腫瘍学入門。医薬ジャーナル社、2009 年

松島英介編著：がん患者のこころ（現代のエスプリ 517）。ぎょうせい、2010 年

大西秀樹編著：サイコオンコロジー（専門医のための精神科臨床リュミエール 24）。

中山書店、2010 年

清水 研編著：がん医療に携わるすべての医師のための心のケアガイド。

真興交易(株)医書出版部、2011 年

岡村 仁著：がんで不安なあなたへ。メディカルトリビューン、2011 年

内富庸介, 小川朝生編集：精神腫瘍学。医学書院、2011 年

内富庸介, 大西秀樹, 小川朝生編著：サイコオンコロジーを学びたいあなたへ。
文光堂、2011 年

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

がんプロシラバス

種 別：緩和基礎

科目名：緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ

(Approach to Physical Symptoms in Palliative Care)

科目担当責任教員：

松 島 英 介	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 心療・緩和医療学分野 准教授 (em. lppm@tmd.ac.jp)
山 田 陽 介	東京都保健医療公社豊島病院 緩和ケア内科 医長 (yosuke-y@toshima-hp.jp)

科目担当教員：(講義順)

吉 澤 明 孝	要町病院 副院長 要町ホームケアクリニック 院長
田 中 桂 子	東京都立駒込病院 緩和ケア科 医長
堀 夏 樹	NTT東日本関東病院緩和ケア科 部長
三 枝 好 幸	聖ヶ丘病院 ホスピス長

授業予定日：平成 24 年 7 月 2 日(月) ～ 7 月 6 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

(2) 授業の概要

身体症状に対する緩和治療の意義、がん性疼痛、呼吸困難、倦怠感、浮腫等々多彩ながんに伴う症状の特徴とその対応を解説。さらに外来、一般病棟（緩和ケアチーム）、緩和ケア病棟、在宅医療の現場における身体症状への対応について具体的な事例を提示しながら解説し、疾患の全経過に関与する緩和医療のありかたについて理解を深められるよう講義を行う。さらにすべての診療の基盤となる患者への援助的コミュニケーションについても講義を行う。

2) 授業計画

- 7月2日(月) (1限、2限 担当: 山田)
緩和ケア病棟における身体症状へのアプローチ
- 7月3日(火) (1限、2限 担当: 吉澤)
在宅医療における身体症状へのアプローチ
- 7月4日(水) (1限、2限 担当: 田中)
がん患者の呼吸器症状
- 7月5日(木) (1限、2限 担当: 堀)
がん患者の泌尿器症状
- 7月6日(金) (1限、2限 担当: 三枝)
がん患者の消化器症状

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習
特になし。
- (2) 他の授業との関連性
緩和医療概論、精神腫瘍学特論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。
- (3) その他
すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook): Geoffrey Hanks, 2009

Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009 (武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 第2版 医学書院 2010年)

がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳 金原出版 1996年

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

がんプロシラバス

種 別:緩和応用

科目名:症状マネジメント(基本編) (Symptom Management (Basic))

科目担当責任教員:

松 島 英 介	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 心療・緩和医療学分野 准教授 (em.lppm@tmd.ac.jp)
山 田 陽 介	東京都保健医療公社豊島病院 緩和ケア内科 医長 (yosuke-y@toshima-hp.jp)

科目担当教員:(講義順)

下 山 直 人	東京医科大学病院 緩和医療部 教授
林 章 敏	聖路加国際病院 緩和ケア科 医長
小 澤 美 和	聖路加国際病院 小児科 医長
高 野 利 実	国家公務員共済組合連合会虎の門病院 臨床腫瘍科 部長
小 澤 竹 俊	めぐみ在宅クリニック 院長

授業予定日:平成 24 年 7 月 9 日(月) ～ 7 月 13 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

(2) 授業の概要

体性痛、内臓痛、神経因性疼痛などの疼痛についての概論にはじまり、各種がんに伴う疼痛・身体症状の実際とその対応を解説。疼痛を初めとする症状コントロールの実践的な基本知識を習得する。

2) 授業計画

- 7月 9日(月) (1限、2限 担当:下山)
疼痛概論 (がんの痛みの機序と分類、それに基づく治療の基本)
- 7月10日(火) (1限、2限 担当:林)
鎮静・臨死期の諸問題
- 7月11日(水) (1限、2限 担当:小澤美和)
小児の緩和医療
- 7月12日(木) (1限、2限 担当:高野)
乳癌の緩和医療
- 7月13日(金) (1限、2限 担当:小澤竹俊)
がん患者への援助的コミュニケーション

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習
特になし。
- (2) 他の授業との関連性
緩和医療における身体症状論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。
- (3) その他
すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook): Geoffrey Hanks, 2009
Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009 (武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2010年)
がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳 金原出版 1996年
日本ホスピス緩和ケア研究財団のホームページにあるE-ラーニング
(<http://www.hospat.org/>)

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

がんプロシラバス

種 別:緩和応用

科目名:症状マネジメント(応用編) (Symptom Management (Advanced))

科目担当責任教員:

松 島 英 介	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 心療・緩和医療学分野 准教授 (em.lppm@tmd.ac.jp)
山 田 陽 介	東京都保健医療公社豊島病院 緩和ケア内科 医長 (yosuke-y@oshima-hp.jp)

科目担当教員:(講義順)

行 田 泰 明	要町病院 緩和ケア部 部長兼麻酔科部長
市 川 雄 二	東京都保健医療公社豊島病院 歯科口腔外科 部長
的 場 元 弘	国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 科長
樋口比登実	昭和大学病院 緩和医療科 准教授
永 井 英 明	国立病院機構東京病院 外来診療部長

授業予定日:平成 24 年 7 月 23 日(月) ～ 7 月 27 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

(2) 授業の概要

一般病棟、在宅医療における疼痛緩和の実際についての解説に始まり、鎮静、臨死期の身体症状をはじめとする諸問題に対して、事例紹介を交えながらより実践的な知識を習得することを目指す。さらに小児を対象とした緩和医療、AIDS 患者を対象とした緩和医療についても講義を行う。

2) 授業計画

- 7月23日(月) (1限、2限 担当:行田)
在宅における症状コントロール(症例提示を交えながら)
- 7月24日(火) (1限、2限 担当:市川)
歯科口腔外科領域における緩和医療
- 7月25日(水) (1限、2限 担当: 的場) がん専門病院における緩和医療・身体
症状へのアプローチ
- 7月26日(木) (1限、2限 担当:樋口)
大学病院における緩和ケアチームによる身体症状へのアプローチ
- 7月27日(金) (1限、2限 担当:永井)
AIDS患者の緩和医療

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習
特になし。
- (2) 他の授業との関連性
緩和医療における身体症状、疼痛マネジメント(基本編)との関連性が深いので
是非受講して頂きたい。
- (3) その他
すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook): Geoffrey Hanks,
2009

Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009

(武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2010年)

がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳
金原出版 1996年

日本ホスピス緩和ケア研究財団のホームページにあるEラーニング

(<http://www.hospat.org/>)

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

がん看護専門看護師養成コース

看護学研究法特論（看護学共通科目）

2単位（前期 月曜日 IIIかIV時限）

未 定（未 定）

大久保功子（本学リプロダクティブヘルス看護学 教授）

森田久美子（本 学 健 康 教 育 学 准教授）

深 堀 浩 樹（本学看護システムマネジメント学 准教授）

操 華 子（国 際 医 療 福 祉 大 学 大 学 院 教 授）

武藤かおり（東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター

公共政策研究分野 准教授）

山 本 則 子（東 京 大 学 大 学 院 教 授）

1. 教育方針

看護研究のプロセスと看護学研究法を学び、看護活動の質向上や看護技術の開発に必要な基礎的研究能力を修得する。

2. 教育目標

- 1) 看護活動の目的、動向、課題を研究的な視点から理解する。
- 2) 看護研究の特徴と種類を学び、研究を展開するための基本的なプロセスを理解する。
- 3) 研究における倫理的配慮のあり方について理解する。
- 4) 代表的な研究方法の実際について、具体例を通じて理解する。
- 5) 看護学の原著論文のクリティークを通し、研究課題を具体化し、看護活動への研究的アプローチ方法を理解する。

3. 教育内容

別表のとおり

4. 教育の進め方、運営、評価

講義と学生が主体的に運営するゼミ形式によって行う。ゼミは指定したテーマに関連する図書を素材として、自己学習とグループ学習の成果発表と全体討議により運営する。

評価はプレゼンテーションや資料、授業の参加状況によって行う。

看護学研究法

1	4月16日	Philosophy of Sciences	大久保	No1(186-224)とNo2.1-69
2	4月23日	Philosophy of Sciences	大久保	No3(3-112)
3	5月7日	Conceptualizing and Planning	大久保	Polit72-119
4	5月14日	Conceptualizing and Planning	武藤	Polit150-173
5	5月21日	Quantitative Research	未定	Polit201-256
6	5月28日	Quantitative Research	未定	Polit257-292
7	6月4日	Quantitative Research	森田	Polit293-378
8	6月11日	Quantitative Research	森田	Polit379-432
9	6月18日	Quantitative Research	森田	Polit433-485
10	6月25日	Qualitative Research	深堀	Polit486-531
11	7月2日	Qualitative Research	深堀	Polit532-601
12	7月9日	Qualitative Research	深堀	Polit602-651
13	7月23日	Mix Method & Building Evidence	未定	Polit653-718
14	7月30日	Grounded theory Approach	山本	
15	9月10日	Substruction	操	

予定は変更することがある

Readings

- 1 Risjord, M. (2010). Nursing Knowledge—Science, Practice, and Philosophy, Wiley-Blackwell.
- 2 Polit, D.F. & Beck, T.C. (2012). Nursing Research—Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice 9th, Wolters Kluwer Lippincott Williams & Wilkins.
- 3 Munhall, P. L. (2012). Nursing Research—A Qualitative Perspective, Jones & Bartlett Learning.

科学哲学

井山弘幸, 金森修 (2001). 現代科学論, 新曜社, 2001.

看護の知と科学、哲学との関係

Rodgers, B. L. (2005). Developing Nursing Knowledge—Philosophical traditions and Influences, Lippincott Williams & Wilkins. (博士後期必読書)

研究法

Grove, S. K. Burns, N. (2008) The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 6e, Saunders Elsevier. (博士後期必読書)

参考文献

D.F. ポーリット & C.T. ベック, 近藤潤子監訳 (2010). 看護研究-原理と方法, 医学書院.
 ジャン・リード & イアン・グラウンド, 原信田実 (2002). 考える看護-ナースのための哲学入門, 医学書院.

看護教育学特論（看護学共通科目）

2単位（後期 木曜日 IV・V時限）

井上智子（本学先端侵襲緩和ケア看護学教授）

宮本真巳（本学精神保健看護学教授）

佐々木明子（本学地域保健看護学教授）

舟島なをみ（千葉大学看護学部看護教育学教授）

亀岡智美（国立看護大学校教授）

木下佳子（N T T 東日本関東病院 専門看護師）

濱口恵子（癌研有明病院 専門看護師）

1. 教育方針

学生は、看護師が持つ教育的機能の基本を理解し、さらに将来専門看護師として、あるいは看護教育・研究者としての役割を果たすために、それぞれに不可欠な教育の原理と技能を学ぶ。また教育的機能が看護ケアの質向上にもたらす効果について理解し、そのための教育環境整備ならびに継続教育・生涯教育の在り方を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 看護師の教育的機能の原理と本質を学ぶ。
- 2) 専門看護師に必要な教育的機能とは何かを知り、看護ケアの質向上に生かす方略を学ぶ。
- 3) 看護師の能力開発のための教育プログラムと教育環境整備の重要性を学ぶ。
- 4) 看護師、専門看護師の継続教育の実際と課題を学ぶ。

3. 教育内容

（別表の通り）

4. 教育の進め方

授業は学生の主体的運営と、事前の課題学習、文献検索等の準備の基に、担当教師との打ち合わせによってすすめられる。

5. 留意点

上記の内容は、変更の可能性がある。

回	月 日	内 容	講 師
1		ガイダンス	井 上
2		看護教育と看護学教育	舟 島
3		看護基礎教育と継続教育の理論と実際	舟 島
4		専門看護師の教育的機能の理論と実際	井 上
5		専門看護師育成プログラムと教育的機能	井 上
6		専門看護師の教育的機能の実際	木 下
7		クリティカルケア看護専門看護師としてのスタッフへの教育的関わり	木 下
8		専門看護師の看護ケア向上のための教育的関わりの実際	濱 口
9		がん看護専門看護師としてのスタッフへの教育的関わり	濱 口
10		教育的役割を果たすための能力開発	宮 本
11		信頼関係形成、教育・相談機能、コンサルテーション能力とは	宮 本
12		看護組織における教育環境の改善 ―問題の明確化―	佐々木
13		看護組織における教育環境の改善 ―改善計画作成―	佐々木
14		看護師・専門看護師の継続教育の実際（教育内容、教育技法、教育評価）	亀 岡
15		看護ケア向上のための看護理論活用（理論検証とスタッフ教育）	亀 岡

看護政策学特論（看護学共通科目）

2単位（後期 火曜 I・II限）

深堀 浩 樹（本学看護システムマネジメント学 准教授）

1. 科目の教育方針

専門看護師として、あるいは看護教育・研究者として看護の質向上のために制度等の改善を含む政策的な働きかけができるようになることを目的に、医療や看護をとりまく制度や政策の現状や政策の決定過程を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 看護を取り巻く制度・政策の実際や決定プロセスを理解する。
- 2) 専門看護師、看護教育・研究者として制度上の現状を理解し課題・問題点を整理し、提示することができる。

3. 教育内容

看護を取り巻く制度・政策の実際と決定プロセスについて、看護学および法学・経済学などの関連領域の研究者や行政官など実際の政策過程に携わる実践家からの講義を通して学ぶ。各自の臨床経験・研究テーマに関連した看護に関連した政策・制度上の課題・問題点を整理・抽出し、改善のための方略を考案し、プレゼンテーションを行う。

4. 進行予定内容

回数	月日	時間	内 容	講 師
1	10月2日	10:30-12:00	オリエンテーション/看護政策学概論	深堀浩樹
2・3	10月9日	9:30-12:00	医療スタッフの業務分担・保助看法の今日的課題点	平林勝政 (國學院大學法科大学院)
4	10月16日	10:30-12:00	看護課題を現場改善と政策に反映する方法	石原美和 (厚生労働省)
5・6	後日調整	9:30-12:00	財政と医療：経済学の視点	佐藤主光 (一橋大学大学院)
7・8	11月6日	9:30-12:00	日本看護連盟と日本看護協会の役割	阿津公子 (日本看護連盟)
9・10	11月13日	10:00-12:00	研究成果の社会への発信	石垣和子 (石川県立看護大学)
11	11月20日	10:30-12:00	看護政策課程演習①（課題の抽出・明確化）	深堀浩樹
12・13	1月15日	9:30-12:00	看護政策課程演習②（目標設定と計画立案）	深堀浩樹
14・15	後日調整		看護政策課程演習③（プレゼンテーション・ディスカッション）	深堀浩樹・外部講師

*日時・内容は講師都合等で変更されることがある。

5. 留意点

- 1) 最終日のプレゼンテーション・ディスカッションは、看護職能団体の職員や国会議員など実際に政策過程に携わっている方に協力を依頼する予定である。（日程は先方と受講者の予定を調整のうえ決定する。）
- 2) 成績は出席状況(50%)、プレゼンテーション・ディスカッションの準備状況・内容(50%)に基づいて評価する。
- 3) 進行予定・内容は、非常勤講師の予定等に応じて変更されることがある。

6. 連絡先

深堀浩樹

3号館15階 看護システムマネジメント学

内線：5352 e-mail：hfukahori.kanr@tmd.ac.jp

看護管理学特論（看護共通科目）

2単位（前期 火曜日Ⅰ・Ⅱ限）

深堀 浩樹（本学看護システムマネジメント学 准教授）

1. 科目の教育方針

看護管理者、もしくは専門看護師として、看護職によって構成される組織を効率的に運営し、その他の保健医療福祉に携わる人々との調整を行っていくことを可能にするために、看護管理とは何かを理解し、組織内におけるリーダーシップや調整機能、スタッフの能力開発などの理論および実際に学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 看護管理に関連した知識を身につけることにより、看護管理者・専門看護師としての役割を有効に果たすための組織のあり方や動かし方の原理と技法を理解する。
- 2) 獲得した知識にもとづいた明確なプレゼンテーション・論理的なディスカッションにより、相互に意見を交換しながらこれからの看護管理の方向性を検討することができる。

3. 教育内容

看護管理およびその近接領域の研究者・実践家による講義を通して、組織におけるリーダーシップや調整機能、スタッフの能力開発など看護管理に関連する理論および実際に学ぶ。また、看護管理の知識を主体的に獲得するプロセスを重視し、看護管理学に関連した海外の書籍の輪読も併せて行う。講義の最後には学んだ内容に基づいたプレゼンテーションを行う。

4. 進行予定

回	日時（予定）		テーマ	講 師
-	4/17	10:30-11:00	初回ガイダンス（原書購読担当決定）	深堀浩樹
1, 2	4/24	8:50-12:00	文献抄読①	深堀浩樹
3, 4	5/8	10:00-12:00	リスクマネジメント（講義）	伊藤謙治 （東京工業大学大学院 教授）
5	5/15	10:30-12:00	看護業務の効率化を実現する院内調整の 実際（講義）	藤沢秀子 （元 河北総合病院看護部長）
6	5/22	10:30-12:00	労務管理（講義）	金井恵美子 （社会保険労務士）
7, 8	6/5	8:50-12:00	文献抄読②	深堀浩樹
9, 10	6/12	9:30-11:30	コンフリクトと交渉（講義）	松村啓史 （テルモ株式会社取締役副社長）
11	7/3	10:30-12:00	看護管理の実際（講義）	橋本末子 （虎の門病院分院 総看護師長）
12, 13	7/10	8:50-12:00	文献抄読③	深堀浩樹
14, 15	7/17	8:50-12:00	文献抄読④、 学生プレゼンテーション	深堀浩樹

5. 留意点

1) 使用する書籍： 初回ガイダンスにて発表する

(参考：平成 23 年度は Leading and Managing in Nursing, Fourth Edition, Patricia S. Yoder-Wise)

2) 文献抄読の発表の際は、書籍のレジメを準備すると同時に、関連知識もしくは自身の臨床実践に関連した考察を加えること。(加える内容については初回ガイダンス時に示唆します)。

3) 最終日の学生プレゼンテーションでは、学習内容に応じたテーマを設定し、意見を異にするグループに分かれ各々プレゼンテーションを行い、質疑応答を行う。学生相互にプレゼンテーションの評価(成績には影響しない)を行い、内容について考察する。

4) 成績は、出席状況(25%) および文献抄読(50%)・プレゼンテーション・ディベート(25%)の内容に基づいて評価する。

5) 進行予定・内容は、非常勤講師の予定等に応じて変更されることがある。

6. 連絡先

深堀浩樹

3号館 15階 看護システムマネジメント学

内線：5352 e-mail：hfukahori.kanr@tmd.ac.jp

看護病態生理学

2単位（前期 木曜日 IV時限）

責任者 本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）
樋野 興夫（順天堂大学医学部教授）
植竹 宏之（本学応用腫瘍学講座特任准教授）
新井 文子（本学血液内科学分野講師）
神奈木 真理（本学免疫治療学分野教授）
石黒 めぐみ（本学腫瘍外科学分野助教）
吉村 亮一（本学腫瘍放射線医学分野助教）
山田 陽介（都立豊島病院緩和ケア科医長）
武田 祐子（慶応義塾大学看護医療学部教授）

1. 科目の教育方針

様々な病態を呈するがん患者の診断・治療を理解することにより、がん看護に関連した専門的知識を深める。

2. 教育目標

- 1) がんの病態生理全般を理解し、現在わが国におけるがん治療を概観する。
- 2) がんの診断に関する理解を深めることを通して、主要ながんの病態生理を理解する。
- 3) がんの治療法に関する理解を深めることを通して、看護が専門的に関わる状態にある対象者の病態生理を理解する。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

講義を通して、がんの病態生理に関する知識を深める。講師の授業の進め方により、事例提示、主要テーマの文献検索、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れる。また、本学医歯学総合研究科「がん医療に携わる専門医師養成コース」で開講される関連科目を、教育内容を考慮し、必要に応じて聴講する。

5. 評価

授業への参加状況、及びレポート。

疾病の病態生理の特徴から影響を受けて生じる療養上の課題を見出し、それに対応した看護援助方法を考案することをレポートの内容とする。

回	月 日	内 容		担 当
1	4月12日 IV	がん病態生理概論		樋野興夫
2				
3				
4				
5		がん治療に伴う 病態生理	手術療法	石黒めぐみ
6				植竹宏之
7			化学療法・幹細胞移植	新井文子
8				
9			免疫療法	神奈木真理
10				
11			放射線療法	吉村亮一
12				
13			緩和ケア(症状コントロール)	山田陽介
14				
15		がんの遺伝学と先端的治療		武田祐子
16				

在宅ケア・緩和ケア看護学特論 A-1

2単位（前期後半 月曜日 I・II時限）

責任者 本 田 彰 子（本 学 在 宅 ケ ア 看 護 学 教 授）
松 下 祥 子（本 学 在 宅 ケ ア 看 護 学 准 教 授）
宮 本 真 巳（本 学 精 神 保 健 看 護 学 教 授）
水 野 道 代（筑 波 大 学 大 学 院 教 授）
佐々木吉子（本学先端侵襲緩和ケア看護学 講 師）
山 崎 智 子（上智大学総合人間科学部 准教授）
内 堀 真 弓（上智大学総合人間科学部 助 教）

1. 科目の教育方針

診断・治療の時期より在宅療養及び終末期に至るまでのがん患者に対して、専門的看護援助を実践する基礎となる理論を理解し、対象となる看護場面で理論を活用する方法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 診断・治療期の援助の基礎となる理論について理解する。
- 2) 急性期・回復期の援助の基礎となる理論について理解する。
- 3) 慢性期・在宅療養および終末期の援助の基礎となる理論について理解する。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

教育目標にあげた内容に適した理論に関する講義を通して、援助行為に通ずる基本的理論を理解する。講師の授業の進め方により、事例提示、分析、ディスカッション等を取り入れる。受講生の関心のある理論を用いて、実践事例の記述及び理論を用いた分析を行い、その経過及び結果を発表する。

5. 評価

授業への参加状況、及び事例分析を含めたレポート。

関心の深いがん看護領域での問題と課題を見出し、それに対応した看護援助方法を考案することをレポートの内容とする。

回	月 日	内 容		担 当
1	4月16日Ⅱ	コースオリエンテーション・コーピング		本田彰子 松下祥子
2		診断・治療期の 援助の基礎となる 理論	意思決定理論	宮本真巳
3			危機理論・危機モデル	佐々木吉子
4				
5				
6		急性期・回復期の 援助の基礎となる 理論	不確かさの理論	水野道代
7			セルフケア・ケアリング理論	内堀真弓
8				
9				
10		慢性期・在宅療養 および終末期の 援助の基礎となる 理論	Loss&Grief	山崎智子
11			ホスピスケアの理論	本田彰子
12				
13				
14		実践事例分析及び発表		本田彰子 松下祥子
15				

在宅ケア・緩和ケア看護学特論 A-2

2単位（前期前半 金曜日 I・II時限）

責任者 本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）

松下 祥子（本学在宅ケア看護学准教授）

井上 智子（本学先端侵襲緩和ケア看護学教授）

蛭田 みどり（ケアタウン小平訪問看護ステーション所長）

1. 教育方針

本科目では、がんの罹患から、病院で侵襲的治療を受け、外来通院をしながらがんと共に生活し治療を続け、種々のサポートを受けながら生活し、さらに終末期に至るまでのがん患者の緩和ケアについての基本的な援助方法について学ぶことを目的とする。

2. 教育目標

- 1) 在宅・緩和ケアを必要とする人々の病態的な特性、がん治療・がん看護の現状を理解する。
- 2) 診断および治療に伴う問題の把握とその解決に向けた援助方法を理解する。
- 3) がん罹患に関連して様々な苦痛の把握と苦痛緩和に向けた援助方法を理解する。
- 4) 在宅ケアにおけるがん終末期看護について理解する。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

各単元の学習内容に沿った講義を受け、さらに事前に分担した内容について、研究論文及び実践事例報告等を検索し、その内容を講義に合わせてプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。最終レポートは、分担したテーマのプレゼンテーション内容をまとめるものとするが、講義やディスカッションの内容を含めた考察と、効果的な援助方法の発展に向けて意見を含めるものとする。

5. 評価

科目の評価は、出席、最終提出レポート、プレゼンテーション、ディスカッション参加状況により行う。

回	月 日	内 容		講 師
1	4月13日Ⅱ	がん看護・緩和ケア概論	がん治療およびがん看護の現状と今後の課題 緩和ケアの概念と緩和ケアの現状	本 田 彰 子
2		診断・治療に伴う 援助	インフォームドコンセントと意思決定 診断時の援助	松 下 祥 子
3			治療による苦痛と援助（手術療法）	井 上 智 子
4			治療による苦痛と援助（化学療法・骨髄移植）	松 下 祥 子
5			治療による苦痛と援助（放射線療法・免疫療法）	本 田 彰 子
6			回復期の苦痛と援助 （セクシュアリティ・形態機能障害）（１）	本 田 彰 子
7			回復期の苦痛と援助（２）	本 田 彰 子
8		がん罹患に伴う 苦痛への援助	がん罹患とそれにまつわるコーピング（１）	井 上 智 子
9			がん罹患とそれにまつわるコーピング（２）	井 上 智 子
10			代替療法・相補療法の発展と今後の役割（１）	本 田 彰 子
11			代替療法・相補療法の発展と今後の役割（２）	松 下 祥 子
12		終末期ケア	緩和ケア病棟・ホスピスの実際と現状	蛭 田 み どり
13			在宅ホスピスにおけるチームアプローチ	蛭 田 み どり
14			家族・遺族への援助（１）	松 下 祥 子
15			家族・遺族への援助（２）	松 下 祥 子

在宅ケア・緩和ケア看護学演習 A

2単位（後期 火曜日 III・IV時限）

責任者 本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）
松下 祥子（本学在宅ケア看護学准教授）
阿部 恭子（千葉県立保健医療大学 准教授）
中島 恵美子（杏林大学保健学部看護学科 教授）
花出 正美（がん研究会有明病院専門看護師）
森本 悦子（聖隷クリストファー大学看護学部 准教授）
井上 智子（本学先端侵襲緩和ケア看護学 教授）
武田 祐子（慶応大学看護医療学部 教授）
石巻 静代（ケアタウン小平クリニック 医師）

1. 教育方針

本科目では、がん看護に関する現在の課題、およびアセスメントと援助について、看護実践の事例を通して言及し、関連する専門家や実践家の取り組みおよび見解、研究成果を含めた幅広い文献検討を活用した考察を行うことにより、客観的に実践を評価・検討する能力を習得する。

2. 教育目標

- 1) 文献による事例や自己の看護実践を通して、がん看護における課題を見出すことが出来る。
- 2) 演習事例分析に取り組み、効果的な支援方法について学ぶ。
- 3) がん看護の研究課題を見出す。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

学生の研究課題に関連した実践事例を提示し、発表とディスカッション中心のゼミ形式で進める。関心のあるテーマを考慮して、文献検討、ディスカッションの準備を分担して複数の学生で協力して行う。また国内外の現状も含めた文献検討が求められるので、外国雑誌等を活用する。担当教員は、学生のプレゼンテーション時に内容にあった実践の提示及びコメントを提供することにより、学習を深める。

5. 評価

科目の評価は、出席、最終提出レポート、プレゼンテーション、ディスカッション参加状況により行う。

回	月 日	内 容		講 師
1・2	10月2日	がん患者のQOLについて：概説		本 田 彰 子
3・4		がん罹患および 療養に伴う 意思決定	病名・病状の説明の受け入れ	本 田 彰 子
5・6			治療法の選択	松 下 祥 子
7・8			療養の場の選択	本 田 彰 子
9・10			終末期における選択	松 下 祥 子
11・12		治療初期における 患者の家族の 捉え方	外科的治療を受ける患者と家族	井 上 智 子
13・14			患者・家族への対処プログラム	松 下 祥 子
15・16		治療継続および 社会復帰の時期の 患者と家族の捉え方	化学療法を受ける患者と家族	中島恵美子
17・18			放射線療法を受ける患者と家族	森 本 悦 子
19・20		がん患者の形態機能 における変化と受容 QOLを高める援助	乳がん	阿 部 恭 子
21・22			頭頸部がん	花 出 正 美
23・24			消化器がん	武 田 祐 子
25・26		セルフヘルプグループ・がんサバイバーへの支援		本 田 彰 子
27・28		緩和ケアにおける マネジメントと 援助	がんの進行に伴う症状緩和	石 巻 静 代
29・30			家族関係・療養環境調整	松 下 祥 子

在宅ケア・緩和ケア看護学特論 B

2単位（後期 月曜日 Ⅲ時限）

本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）
松下 祥子（本学在宅ケア看護学准教授）
山田 陽介（都立豊島病院緩和ケア科医長）
川越 厚（ホームケアクリニック川越院長）
川越 博美（訪問看護バリアン看護師）
大谷木 靖子（昭和大学医学部付属病院がん専門看護師）
松島 英介（本学心療・緩和医療学分野准教授）
濱口 恵子（がん研究会有明病院・がん専門看護師）

1. 教育方針

本科目では、緩和ケアと終末期看護の特定専門領域に焦点をあて、ホスピス、緩和ケアの歴史を踏まえ、現在の課題を明確にし、初発治療期から終焉までの緩和ケアの方略を探究する。

診断・初発治療期から生じる様々な問題、種々の症状への緩和ケアと自己管理、そして、終末期における療養環境のコーディネートと家族へのかかわりを学習内容とする。また、これらの内容について、看護実践の国際的状況比較を含めた我が国の現状を理解し、看護実践の状況を把握しかつ課題分析を行い、専門的取り組みの必要性を理解した上で、具体的看護実践の提言をすることを学習方法とする。

2. 教育目標

- 1) 在宅ケア・緩和ケアを必要とする人々の看護実践上の課題を説明できる。
- 2) 在宅ケア・緩和ケアを必要とする人々の終末期における療養環境のコーディネートおよび家族看護の現状および、その看護実践上の課題を説明できる。

3. 教育内容

- 1) 教育目標の内容に沿って、現状と課題を見出すべく、関連文献を用いてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。その際、領域専門の教育研究者、実践者より専門的視点からのコメントを得ることにより、現状および課題を統合し、今後の対応策を検討する。

4. 教育の進め方、運営、評価

テーマに沿った講義を受け、理論的基盤を修得する。

科目の評価は、出席、最終提出レポート、プレゼンテーション、ディスカッション参加状況により行う。

回	月 日	内 容		講 師
1		緩和ケアの概念・緩和ケアの現状 全人的ケア		山田陽介
2				
3		在宅における療 養環境のコーデ ィネートおよび 家族看護	在宅終末期医療の実際とチームアプローチ	川越 厚
4			終末期がん患者と家族への援助	川越 厚
5				
6				
7			終末期がん患者の在宅療養支援	川越博美
8				
9		痛みのマネージメント その他の症状マネージメント		大谷木靖子
10				
11		サイコオンコロジーの視点でのアプローチ 生命倫理・DNR／セデーション／尊厳死		松島英介
12				
13		がん専門病院における CNSの役割		濱口恵子
14				
15		チームアプローチ 緩和ケアチーム		本田彰子
16				松下祥子

在宅ケア・緩和ケア看護学演習 B

2単位（後期 月曜日 IV・V時限）

本田 彰子（本学在宅ケア看護学教授）

松下 祥子（本学在宅ケア看護学准教授）

（協力施設臨床教授・臨床講師・専門看護師）

1. 教育方針

在宅ケア・緩和ケア看護学特論A・B、在宅ケア・緩和ケア看護学演習Aにおいて学んだ基本を基に、苦痛を体験している人とその家族への看護援助を効果的に行うためのアセスメントの方法を習得する。外来通院で緩和ケアを受けるがん患者・家族、施設ホスピスで緩和ケアを受けるがん患者・家族、在宅で終末期在宅療養し緩和ケアを受けるがん患者・家族の苦痛のアセスメントの視点を、実践を通して学び、アセスメント能力を高める。

2. 教育目標

- 1) 外来通院で緩和ケアを受けるがん患者・家族、施設ホスピスで緩和ケアを受けるがん患者・家族、在宅で終末期在宅療養し緩和ケアを受けるがん患者・家族の事例から、患者の治療・療養上の問題をアセスメントする基礎的能力を習得する。
- 2) 外来通院で緩和ケアを受けるがん患者・家族、施設ホスピスで緩和ケアを受けるがん患者・家族、在宅で終末期在宅療養し緩和ケアを受けるがん患者・家族に対する看護実践を通して、援助の方向性を見出し説明することができる。

3. 教育内容

表に示す。

4. 教育の進め方、運営

外来通院中の患者、施設ホスピスで療養中の患者、在宅で終末期在宅療養中の患者の健康問題（治療による苦痛、がん性疼痛、倦怠感など）とその家族について、アセスメントの基本的方法を学ぶ。実践を通して患者の健康問題をアセスメントし、収集したデータを系統的に分析し、アセスメントの視点を検討する。アセスメントの視点に基づき、患者の健康問題を包括的に検討し、援助の方向性を見出す。具体的には下記の方法を用いる。

ベッドサイドティーチング

- ・ベッドサイドにて情報収集の実践と連携施設看護師によるアセスメント実践指導。
- ・当該施設での看護計画に従った対象患者への看護実践。

学内演習（検討会）プレゼンテーション

- ・事例の情報の提示及びアセスメント。
- ・問題の明確化及び援助の方向性の提示。

5. 評価方法

1) 評価

指導者による評価、検討会によるプレゼンテーションと討議内容

回	月 日	内 容	講 師
1・2		緩和ケア・在宅 在宅療養中の時期にある事例の情報収集及び看護実践 (協力施設：訪問看護パリアン他)	施設担当看護師 (臨床教授・講師及び専門看護師を含む)
3・4			
5・6			
7・8			
9・10		学内演習（事例検討）	本田彰子 松下祥子
11・12		緩和ケア・施設ホスピス 施設ホスピスで療養中の事例の情報収集及び看護実践 (協力施設：都立豊島病院 都立駒込病院 他)	施設担当看護師 (臨床教授・講師及び専門看護師を含む)
13・14			
15・16			
17・18			
19・20		学内演習（事例検討）	本田彰子 松下祥子
21・22		緩和ケア・外来 外来継続治療中の事例の情報収集及び看護実践 (協力施設：都立豊島病院 都立駒込病院 他)	施設担当看護師 (臨床教授・講師及び専門看護師を含む)
23・24			
5・26			
27・28			
29・30		学内演習（事例検討）	本田彰子 松下祥子

在宅ケア・緩和ケア看護学実習

6単位

本田 彰子 (本学在宅ケア看護学 教授)

松下 祥子 (本学在宅ケア看護学 准教授)

1. 教育方針

本実習はがん看護専門看護師受験資格を得る目的で設定されている。病院から在宅療養への全過程を通し、がん看護専門看護師としての基礎的態度、判断能力、実践能力を身につける。

2. 教育目標

- 1) 複雑な問題を持つがん患者・家族への専門的で高度な質の高い看護実践能力を習得する。
- 2) がん専門看護師の役割、調整、相談、教育、倫理調整について学ぶ。
- 3) 変化する社会情勢と保健医療の状況の中での役割開発をめざす。

3. 教育内容

1) 実習内容・実習計画

病院から在宅に移行する過程の援助（退院移行期）、外来治療を受けながら社会生活を送る段階の援助（外来通院療養期）、訪問看護における在宅での援助（ターミナル期）、といった3つの時期の実習から2つを選択し、高度な看護実践を行う。

またがん専門看護師が所属する施設においてがん専門看護師の指導のもとに専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）について、見学・参画しながら学習する。

2) 実習指導体制・実習場

実習施設への依頼や実習内容の調整は担当教員と共に行い、実習施設指導者のもとで個別の実習指導体制を整える。

実習場：都立駒込病院・都立豊島病院・千葉大学医学部付属病院・東邦大学医療センター大森病院

ケアタウン小平クリニック・ケアタウン小平訪問看護ステーション

ホームケアクリニック川越他

3) 実習方法

療養段階の3つの実習場所から2つ以上、3名以上の患者を受け持ち、がん看護専門領域の看護スタッフの指導のもと高度な看護実践を行う。（実習時期：1年後半）

がん専門看護師と共に行動し、その役割を実践体験する。（実習時期：2年前半）

4) 実習記録・レポート・評価

- ① がん看護実践への取り組み、態度
- ② 受け持ったがん患者の看護の実践・分析・評価についてのレポート
- ③ がん看護専門看護師の役割についての実践レポート
- ④ 今後のがん看護師の役割・教育のあり方に関するレポート

在宅ケア・緩和ケア看護学の実習

実習目的	実習内容
がん看護専門看護師の大学院教育として必要とされる能力	病院から在宅に移行する過程の援助（退院移行期）、外来治療を受けながら社会生活を送る段階の援助（外来通院療養期）、訪問看護における在宅での援助（ターミナル期）、といった3つの時期の実習で、適切な専門的援助を行う。がん看護専門看護師としての役割について実践を通し深めていく。
1. 実践 がん患者・家族への卓越した看護実践を行う 2. 教育 看護職者に対しケアを向上させるための教育的機能を果たす 3. 相談 看護職者和其他のケア提供者に対する相談の役割を学ぶ 4. 調整 ケアが円滑に提供されるために保健医療福祉に携わる人々のコーディネーションを行う 5. 研究 専門知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における研究活動に取り組む 6. 倫理 倫理的な葛藤が生じた場合、関係者間での調整を行う	学生が深めたいと希望する2つ以上の療養段階を選択し、患者を3名以上受け持ち、患者・家族への卓越した看護を目指した実践を行う。 専門領域の看護スタッフの指導のもとに、職員教育に参画する。 看護チームメンバーからコンサルテーションを受ける場面に参画し、専門領域の指導者と共にその実践を行う。 受け持ち患者のケアが円滑に提供されるために必要な、医師、薬剤師、看護職者、保健医療福祉に携わる人々との連携、調整をはかる。 がん看護専門分野において、専門知識・技術の向上や開発を目指し、取り組むべき課題を見出し、研究活動を実践する。 がん看護における倫理的な問題について、患者・家族・ケア提供者・関係機関の間に立って調整をするために実習指導者やスタッフと検討する場をもって実習する。

専攻教育課程照合表

専門看護分野：がん看護

	科 目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	認定 単位
専攻分野 共通科目	1.がんに関する病態生理学	看護病態生理学	様々な臨床像を示すがん患者の病態生理学的特徴および発癌のしくみ、腫瘍疫学、遺伝学、診断・治療学、緩和ケア学についての知識を深め、あらゆる時期のがん患者のケアの改善および開発に役立てる方略を学ぶ。各回で専任教員・担当講師とともに、講義内容と事例をもとに討議を行い、病態の理解を深めていく。	2	2
	2.がん看護に関する理論	在宅ケア・緩和ケア看護学特論 A-1	がん患者とその家族を全人的に捉え、専門的ながん看護を行っていく上で基礎となる主要理論（意思決定理論、危機理論・危機モデル、不確かさの理論、セルフケア・ケアリング理論、Loss&Grief、ホスピスケアの理論）について学び、さらにその活用について各自の実践経験に基づく事例分析を通して探求する。	2	2
	3.がん看護に関する看護援助	在宅ケア・緩和ケア看護学特論 A-2	がんの予防、早期発見、病名・予後告知、治療の選択、診断・治療に伴う援助法、および症状緩和などのテーマで、アセスメントおよび基本的看護援助について、学生のプレゼンテーション、専任教員および担当講師とともにディスカッションを行い、問題探究・解決能力を高める。	2	2
		在宅ケア・緩和ケア看護学演習 A	がんの予防、早期発見、病名・予後告知、治療の選択、診断・治療に伴う援助法、および症状緩和などについてのアセスメント、援助法について、実践の困難事例を通し、がん看護の実践家、専門家および専任教員との討議を通し、現状の課題とその解決策を探求する。	2	2
専攻分野 専攻科目	1.化学療法看護				
	2.放射線療法看護				
	3.幹細胞移植看護				
	4.がんリハビリテーション看護				
	5.疼痛看護				
	6.緩和ケア	在宅ケア・緩和ケア看護学特論 B	緩和ケアに関して、がん看護専門職としての具体的看護援助方法について、また、終末期における療養環境のコーディネートおよび家族・遺族への看護のあり方について検討する。学生の専門とする領域にしたがって、国内外の研究成果の分析・実践事例分析を行い、現在の課題を明確にし、初発治療期から終焉までの緩和ケアの方略を探究する。	2	2
	7.ターミナルケア	在宅ケア・緩和ケア看護学演習 B	がんの緩和ケアにおける諸問題、および終末期ケアに関する現在の課題について、看護実践事例を通して、理論、実践家の取り組みを参考に分析検討を行い、症状緩和を必要とする患者とその家族への看護援助を探究する。	2	2
実習科目	8.予防・早期発見				
	実習	在宅ケア・緩和ケア看護学実習	がん看護専門看護師に必要な判断能力、基礎的態度、実践能力を養う。特に入院から退院準備の時期、治療を受けながら社会復帰を送る時期、緩和ケアが必要な終末期への看護支援に重点を置く。	6	6
				申請単位数 18 単位	

医学物理士養成コース
放射線治療品質管理士養成コース

種別 : 放射線基礎、放射線応用、医歯工学基礎、医歯工学医学物理
 科目名 : 下記の表を参照のこと
 科目責任者 : 下記の表を参照のこと
 科目担当者 : 下記の表を参照のこと
 授業予定月日 : 平成24年8月27日～11月2日
 講義開催場所 : 田町キャンパスCICで開講
 備考 : 1 東京医科歯科大学医歯学総合研究科及び東京工業大学医歯工学特別コースの共同開催となる。
 2 がん専門医師養成コースの4科目はコメディカルコースと合同開催科目となる。

科目名	単位	責任者	講義担当予定者	講義概要
医歯工学概論	1	小杉	小杉幸夫(総理工) 高瀬浩造(医歯大) 田中順三(理工)	医歯工学に関わる基礎的事項を説明し、医療を支える医学の特殊性、医療における診断の概要、治療方法の概要ならびに医療における倫理面的問題と対応方法について医学・工学の両面より論じる。
人体機能学	1	高瀬	平尾見三 三浦宏之 東條尚子 宗田大(医歯大)	人体の機能に関する解剖・生理・生化学的基礎を、循環生理、呼吸生理、運動生理顎口腔生理の立場から、臨床面に重点を置きながら解説する。
人間安全工学	1	伊能	中村聡(生命) 宇治橋貞幸(情報理工) 八木透(情報理工) 林崎規託(原子炉) 小杉幸夫(総理工)	機械、化学、電気など各工学分野の立場から生体に対する安全性や、人間工学に対する考え方を論じる。
放射線物理学・放射線技術学特論	1	高瀬/三浦	阿部慎司(茨城県医療大)	医療における放射線技術の概要を述べるとともに、その根拠となる物理学的な背景について概説する。また、医療放射線技術における基盤である放射線防護の基本について、臨床現場での対応を含め、解説する。
医用放射線診断学・核医学/腫瘍放射線診断学・核医学特論	1	高瀬/大橋	大橋勇(医歯大)	放射線科領域における磁気・超音波を含めた診断技法の原理および概要を講じるとともに、それぞれの適応と臨床応用の実際についても論じる。
医用放射線生物学/腫瘍放射線生物学特論	1	高瀬/三浦	三浦雅彦(医歯大) 渡邊裕(医歯大)	放射線が生物に対して与える影響について、分子レベル、細胞レベル、個体レベル、および集団レベルで論じる。また、病態・疾患との関連について講じる。
医用画像情報学(医歯工学)	2	小尾	小尾高史(総理工) 大山永昭・山口雅浩(像情報)	放射線画像やカラー画像機器における画像再構成技術、画像診断支援技術と、画像保存や通信などの画像管理におけるセキュリティ技術について講義する。
医療機器開発概論	2	小杉	梶川浩太郎(総理工) 吉川史郎(理工) 瀬尾育弉(駒澤大) 井出勝久 (医薬品医療機器総合機構) 赤池敏広(生命) 大森健一(小林メディカル) 依田潔(エレクトラ) 斉藤吉毅(オリンパス) 澄田政哉 (旭化成くられメディカル)	医療機器の開発の現場で遭遇する諸問題(含GLP,GCP,GMP)について、各実務担当者が講じる。
放射線治療学/腫瘍放射線治療学特論	1	高瀬/渋谷	渋谷均(医歯大)	医療における放射線治療の意義とその応用範囲、線量測定・治療計画の方法論、他の治療法との関連および副作用・安全管理について論じる。
放射線治療物理学	2	河野	河野俊之(総理工) 金井達明(群馬大学) 松藤成弘・水野秀之・兼松伸幸 (放医研)	医療用放射線の発生と計測法、照射装置の設計、線量測定の理論、線質測定の理論、小線源の線量測定、照射技術と線量計算(治療計画)、治療周辺装置、について詳しく論じる。
核医学物理学	1	河野	山谷泰賀(放医研)	放射性薬剤の生産(製造、核種)、吸収線量評価、試料測定技術、体外測定技術について論じる。
放射線医療実習	1	河野	水野秀之・養原伸一・兼松伸幸 (放医研)	Co照射装置による電離箱の絶対線量校正、水中線量分布の測定、小線源の線量測定、ガラス線量計による線量測定、などの線量測定技術の実習、および治療計画装置の実習。
医用放射線発生装置	1	小栗	林崎規託・小栗慶之・小原徹 (原子炉)	放射線発生装置としての粒子加速器、原子炉システムについて、その動作原理と診断・治療・アイソトープ製造等、医療分野への応用例について解説する。
人体解剖病態学	1	高瀬	山田哲夫・遠藤太嘉志・秋田恵一(医歯大)	医工学に必要な形態学を包括的に教授しながら、医学の基礎である肉眼解剖学および病理学を、人体にかかわるマクロからミクロの構造として理解することを目的とする。特に、構造にかかわる正常機能と機能異常について解説する。

○他大学生の施設の利用

履修上必要な施設・設備（付属図書館、食堂等）を利用することができる。

○学内の掲示

大学から学生の皆さんへの告知や連絡は、履修登録時に提出した連絡票のメールアドレスへ送信します。また、下記の掲示板にも掲示することにより、周知したものとして取り扱うこととします。

＜公用掲示板＞

- ・教務課掲示板…1号館西1階 教務課前
- ・大学院掲示板…わくわく保育園横

○生活協同組合

生活協同組合は、5号館の地階及び1階にあり、地階が売店、1階が食堂となっている。

○図書館

○場 所： 湯島地区 M&Dタワー3・4階（図書館入り口は3階）

○開館時間： 平 日 8:30～22:00 土・日・祝日 8:30～17:00

（注）平日19:30以降、および土・日・祝日は、M&Dタワー1階玄関は施錠されています。インターフォンで防災センターに解錠を依頼してください。

○休 館 日： 年末年始

○入館手続： 初回に、がんプロの履修者であること、特別聴講生であること、在学期間は履修登録をしている科目の最終講義日を伝えて下さい。図書館利用証を発行します。2回目以降は、入館ゲートに図書館利用証をタッチしてください。

○貸出・返却

1. 貸出冊数： 図書・製本雑誌＝5冊（未製本雑誌の貸出は不可）
2. 貸出期間： 図書＝2週間、製本雑誌＝1週間
3. 貸出手続： 自動貸出機（図書館利用証が必要）
4. 返 却： 開館時間中＝受付 閉館中＝ブックポスト（図書館入り口）

○文献複写： 有料複写機（3・4階）

○自動書庫： 製本雑誌を収納（取り出しには、図書館利用証が必要）

○電子ジャーナル・電子書籍・データベース： 利用は学内のみ（図書館で閲覧可）

詳細は、図書館ホームページ（<http://lib.tmd.ac.jp/>）「図書館利用案内」をご覧ください。

○交通案内・キャンパス案内等

東京医科歯科大学 文京区湯島 1-5-45

《ホームページ》<http://www.tmd.ac.jp/>

・学務部教務課大学院室

1号館西1階

・がんプロ講義室

M&Dタワー11階 大学院講義室3

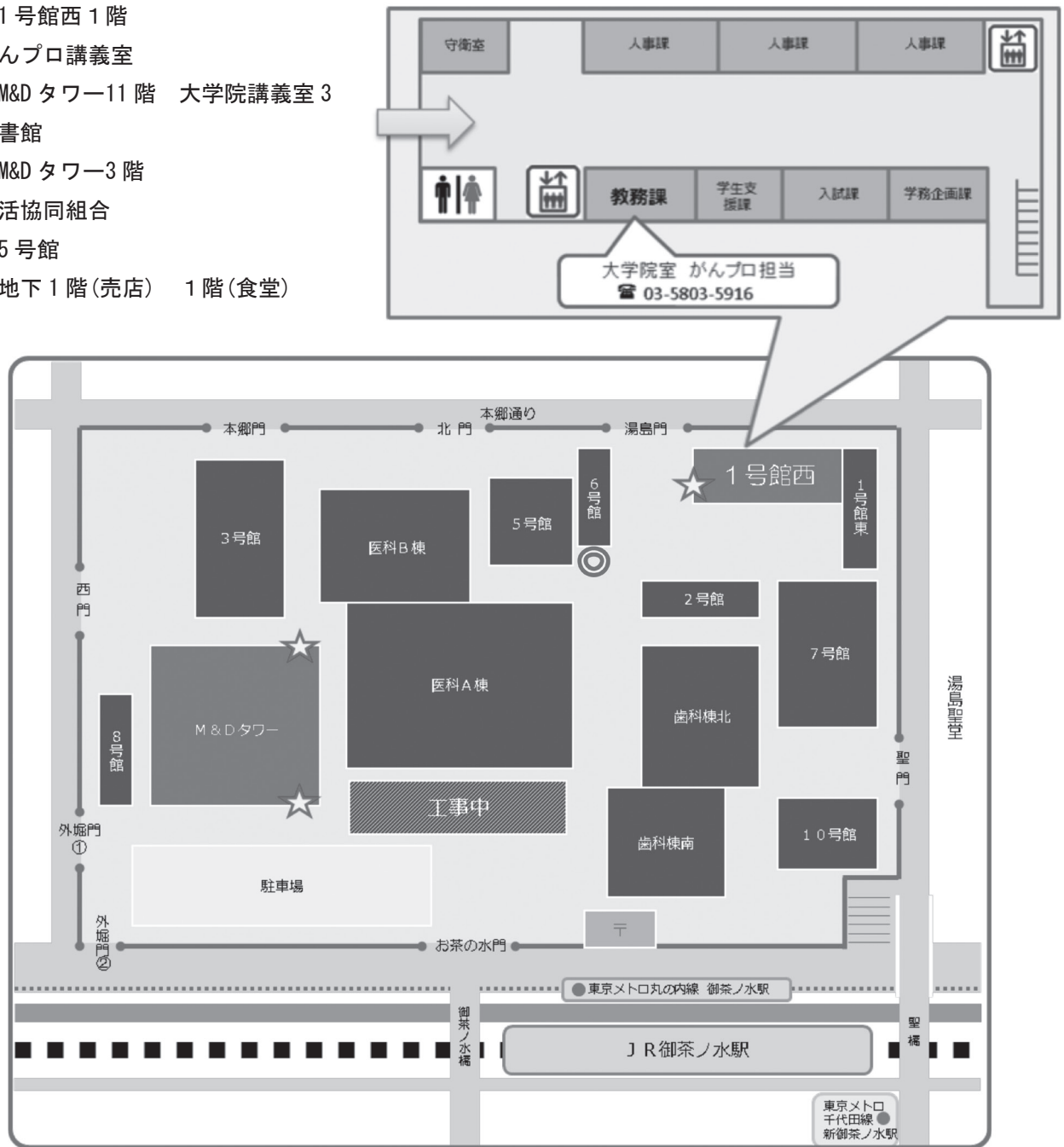
・図書館

M&Dタワー3階

・生活協同組合

5号館

地下1階(売店) 1階(食堂)

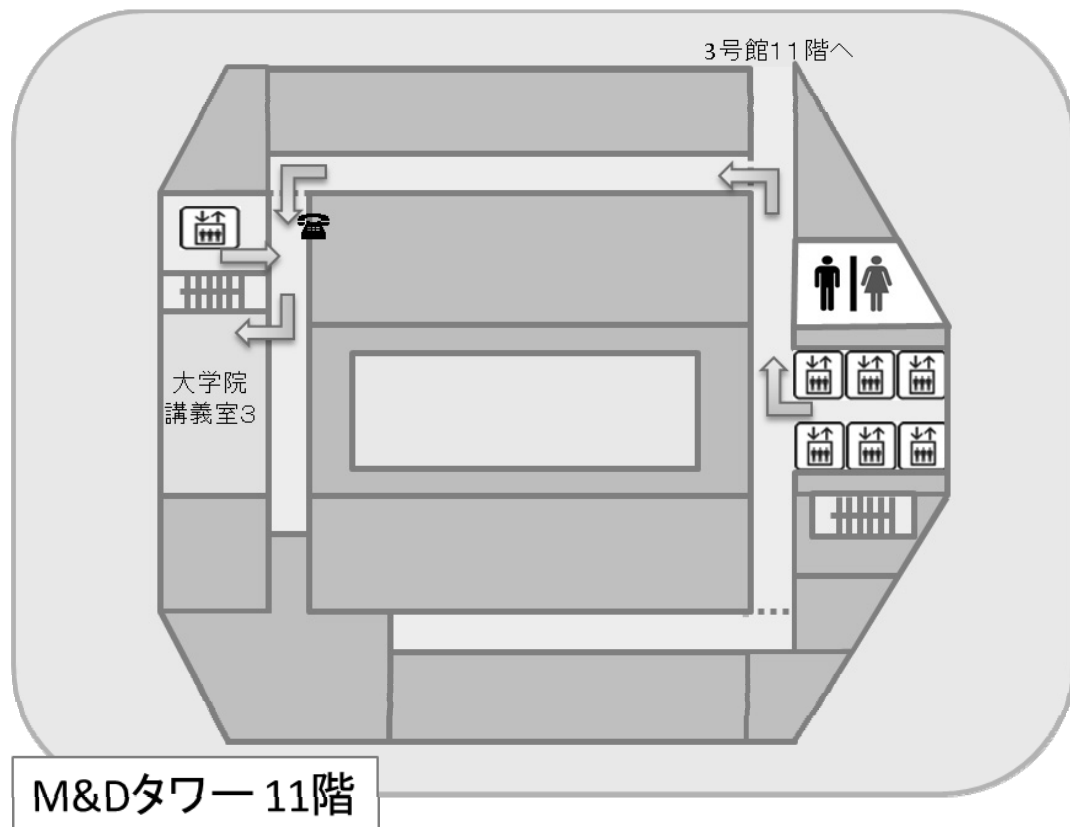
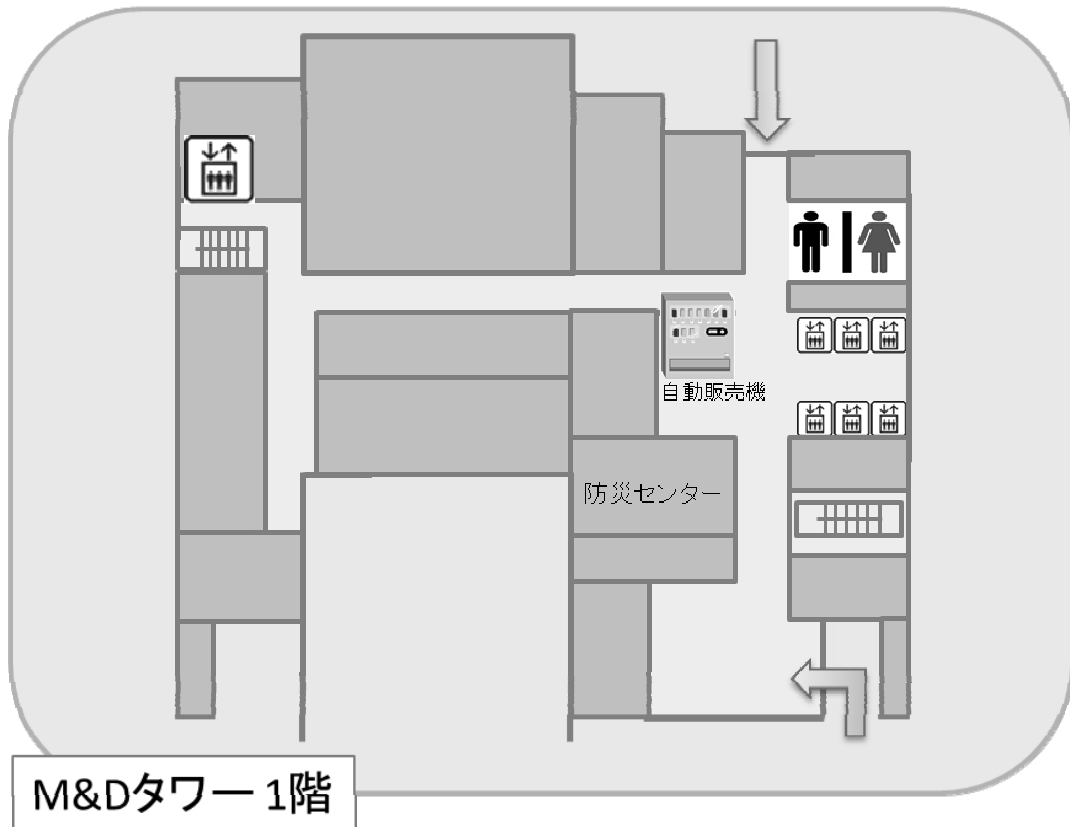


☆建物入り口 3号館入口は18時で閉鎖となります。

◎大学院掲示板

《最寄駅等》

J R	御茶ノ水駅下車	(中央線、総武線) 徒歩5分
東京メトロ	御茶ノ水駅下車	(丸ノ内線) 徒歩2分
東京メトロ	新御茶ノ水駅下車	(千代田線) 徒歩5分



東京工業大学 田町キャンパス

CIC（キャンパス・イノベーション・センター）

